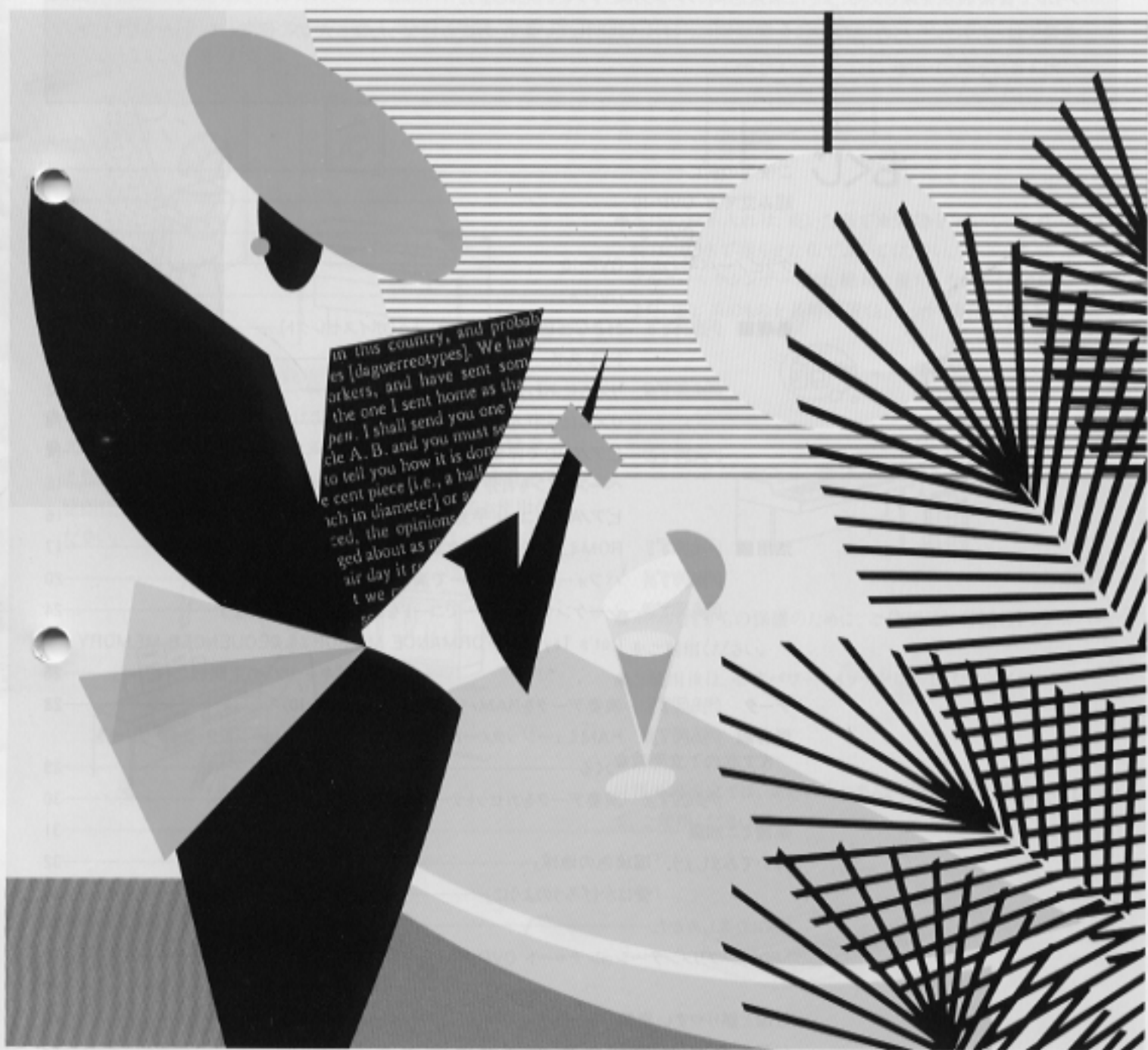


Clavinova®

CVP-10/CVP-8

取扱説明書



YAMAHA

ヤマハクラビノーバをお買い上げいただきありがとうございます。

ヤマハクラビノーバは、常に新しい音とより高い音楽性を追求するヤマハが、先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、画期的な鍵盤楽器です。

CVP-10、CVP-8ともに、弾き応えのあるピアノタッチ鍵盤、そして音色はヤマハが新しく開発したAWM音源とFM音源を採用。リアリティーあふれるサウンドに指先のタッチひとつで自由に表情をつけることができ、アコースティックピアノに迫る豊かな演奏感が味わえます。また、クラビノーバの自動演奏を聴いて楽しんだり、基礎からキーボード演奏をマスターできるROMミュージックブックシステム、ポリとベースの2パートの演奏を記憶できるパフォーマンスメモリー機能、自動伴奏を記憶させるシーケンサーメモリー機能、さらにMIDI端子までも備えました。

この数々の特長によって、音楽表現の可能性を大きく広げた、クラビノーバ。ビギナーの方からハイグレードの方まで、自由なスタイルで音楽表現を楽しめる、まさに未来志向のデジタルピアノといえましょう。

本書では、クラビノーバの操作方法を機能別に、くわしく説明しています。お読みになった後も大切に保管して、わからないことが出てきたら、もう一度ご覧になってください。

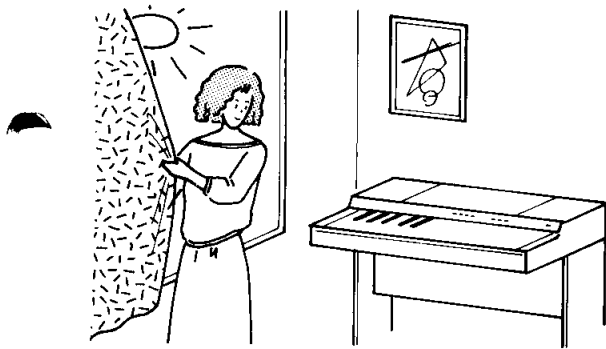
もくじ

	ページ
ご使用の前に	1
組み立て方 CVP-10	2
CVP-8	3
クラビノーバ早わかり CVP-10	4
CVP-8	7
基礎編 PART1 好きな音色で弾いてみましょう(ボイスセレクト)	10
トランスポーザーとピッチコントロール	11
PART2 リズムにあわせて弾いてみましょう	12
リズムに変化をつけましょう	13
PART3 ピアノABCで伴奏をつけましょう	14
ベースラインを自分で弾きたいときは…(マニュアルベース)	15
ピアノABC・コード早見表	16
活用編 PART1 ROMミュージックブックでレッスンを	17
PART2 パフォーマンスメモリーで演奏を記憶させてみましょう	20
PART3 シーケンサーメモリーでコードをおぼえさせてみましょう	24
Let's Try PERFORMANCE MEMORY & SEQUENCER MEMORY	26
ミュージカル“キャッツ”の主題歌「メモリー」	26
データ PART1 演奏データをRAMパックにストック(CVP-10)	28
保存編 PART2 RAMミュージックノートブックでオリジナルのミュージック・ライブラリーをつくる	29
PART3 演奏データをカセットテープにストック	30
楽譜ミニ知識	31
弾いてみましょう「瑠璃色の地球」	32
「愛はかげろうのように」	34
MIDIの楽しみかた	36
MIDIインプリメンテーションチャート CVP-10	38
CVP-8	39
故障と誤りやすい現象	40
付属端子(および調節スイッチ)とオプション	42
仕様	43

ご使用前に

ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

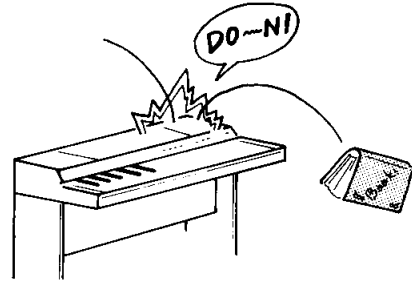
- クラビノーバの電源には、必ず家庭用AC100Vの電源コンセントをご使用ください。また、コンセントから抜くときは、コードをひっぱらずに必ずプラグを持って抜いてください。
長く使わない時や雷の鳴っている時はプラグを抜いてください。
- 直射日光が当たったり、暖房器具のそばなど極端に暑い場所に置くことはさけてください。本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。



- 特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- クラビノーバにはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。



- 過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を倒したり、上に座ったりしないように注意してください。



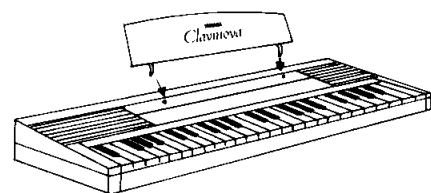
- 本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきをするか、よごれのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。
アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。
また、塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があります。



- ホコリなどからの保護のために、ご使用後は付属のトップカバーをご利用ください。
- ご使用後は、必ずパワースイッチを切ってください。

●譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、楽器の上にある2つの穴に、その両端を差しこんで、ご使用ください。

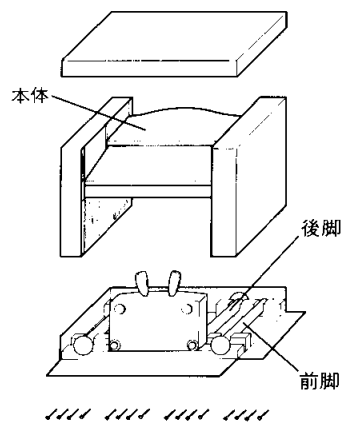


組立て方

クラビノーバは次のような手順で組立ててください。また、解体するときは逆の手順で行ってください。

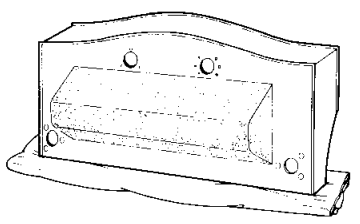
CVP-10

1 ●箱をあけ、各パーツをとりだします。



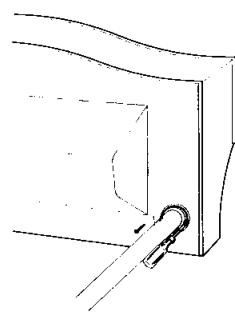
箱をあけると、上図のパーツが入っています。(ネジが12本そろっているか、お確かめください。)組立ては2人以上で行い、本体を傷つけないよう毛布などの柔らかい布をご用意ください。

2 ●本体を床におきます。



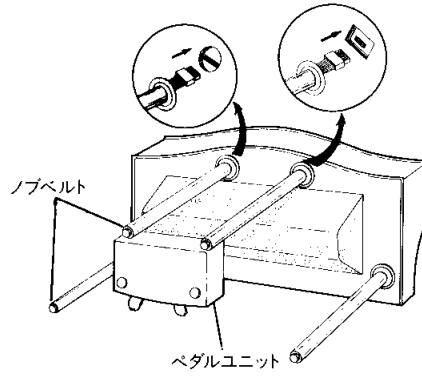
毛布などの柔らかい布を床に敷き、図のように本体をおきます。この時、本体が倒れないように壁にたてかけてください。

3 ●脚かざりをとりつけます。



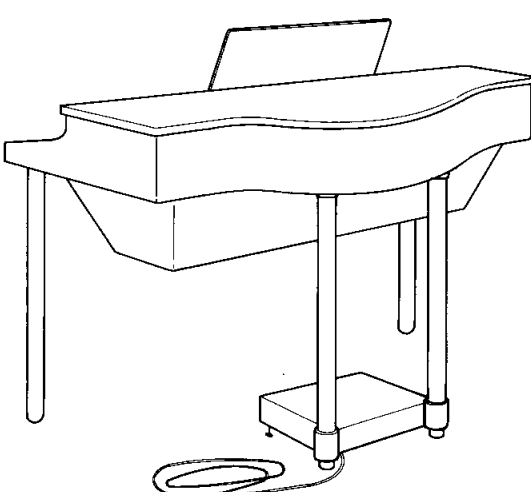
脚かざりを脚の付根まであげ、プラスドライバーでネジをしっかりとめつけてとりつけます。

4 ●後脚をとりつけます。



まず、後脚のなかに入っているコネクタを本体に接続します。それから、3と同じ方法で脚かざりと後脚を本体にとりつけます。

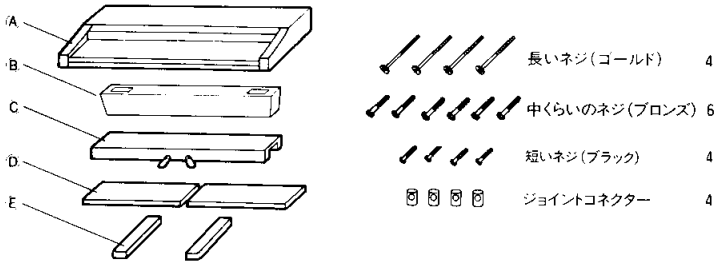
5 ●本体を起こして、組立て完了。



★前脚と後脚の底部にノブボルトがついています。床によって本体がぐらつくときは、脚の長さを調節してください。

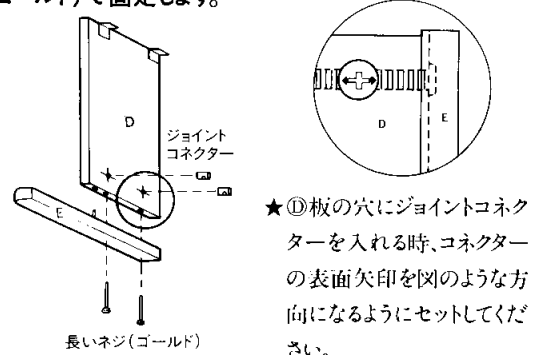
CVP-8

1 ●箱を開け、各パーツをとりだします。



箱を開けると上図のパーツが入っています。
すべてそろっているかお確かめください。

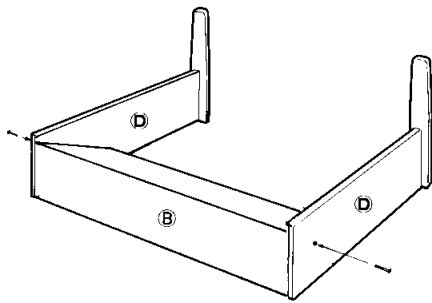
2 ●①板と⑤をつなぎます。
図のようにジョイントコネクタを①板に取り付け、長いネジ（ゴールド）で固定します。



★①板の穴にジョイントコネクタを入れる時、コネクタの表面矢印を図のような方向になるようにセットしてください。

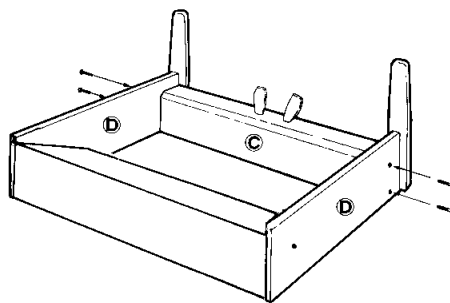
★⑤板を取り付ける時、図にしたがって左右をまちがえないように注意してください。角が丸くなっている方が外がわです。

3 ●②板と④板をつなぎます。



②板の穴と④板の穴をあわせ、2本の中くらいのネジ（ブロンズ）をドライバーでしっかりと止めます。

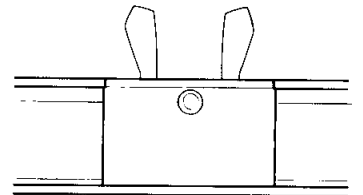
4 ●④板と③板をとりつけます。



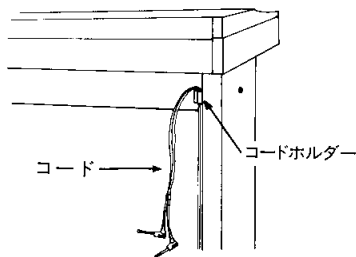
④板に③板をとりつけ、4本の中くらいのネジ（ブロンズ）でしっかりとめます。この時、ペダルのついている方が前になるよう、ご注意ください。

★③板底部に安定のためのノブボルトがついています。床からの高さに合わせて調節してください。演奏中、ペダルを踏んだ時も安定し、よりペダルの効果をかけやすくなります。

③板底部

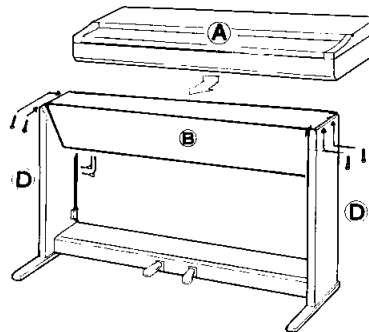


5 ●コードホルダーにコードをとめます。



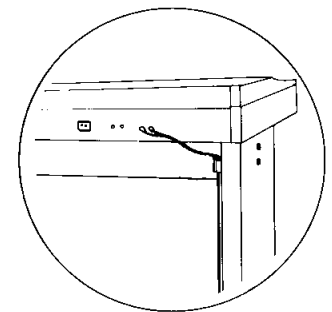
スタンドを起し、③板からでているペダルのコードを、①板内側のプラスチックのコードホルダーにしっかりとめます。

6 ●鍵盤部をはめこみます。



④の鍵盤部を、①板のミゾにあわせて後方から前へスライドさせ、動かなくなるまではめこみます。②板、①板の金具の穴と、④板の穴をあわせ、短いネジ（ブラック）でしっかりとめます。

7 ●プラグを接続します。



鍵盤部④背面の付属端子にペダルのプラグを差し込みます。グレーのプラグはDAMPER端子、黒いプラグはSOFT端子に接続してください。

クラビノーバ早わかり CVP-10

まずは、クラビノーバのアウトラインをつかみましょう。くわしくは()のページをご覧ください。

したく 1 **まずはクラビノーバのセット。**

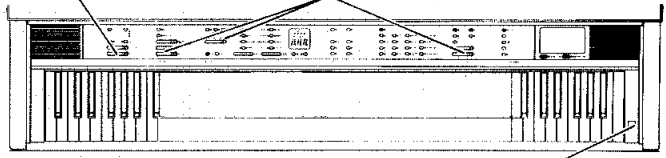
①2ページの説明を読みながら、クラビノーバを組み立てます。
②電源に接続します。

★必ずAC100Vのコンセントから電源をとるようにしてください。

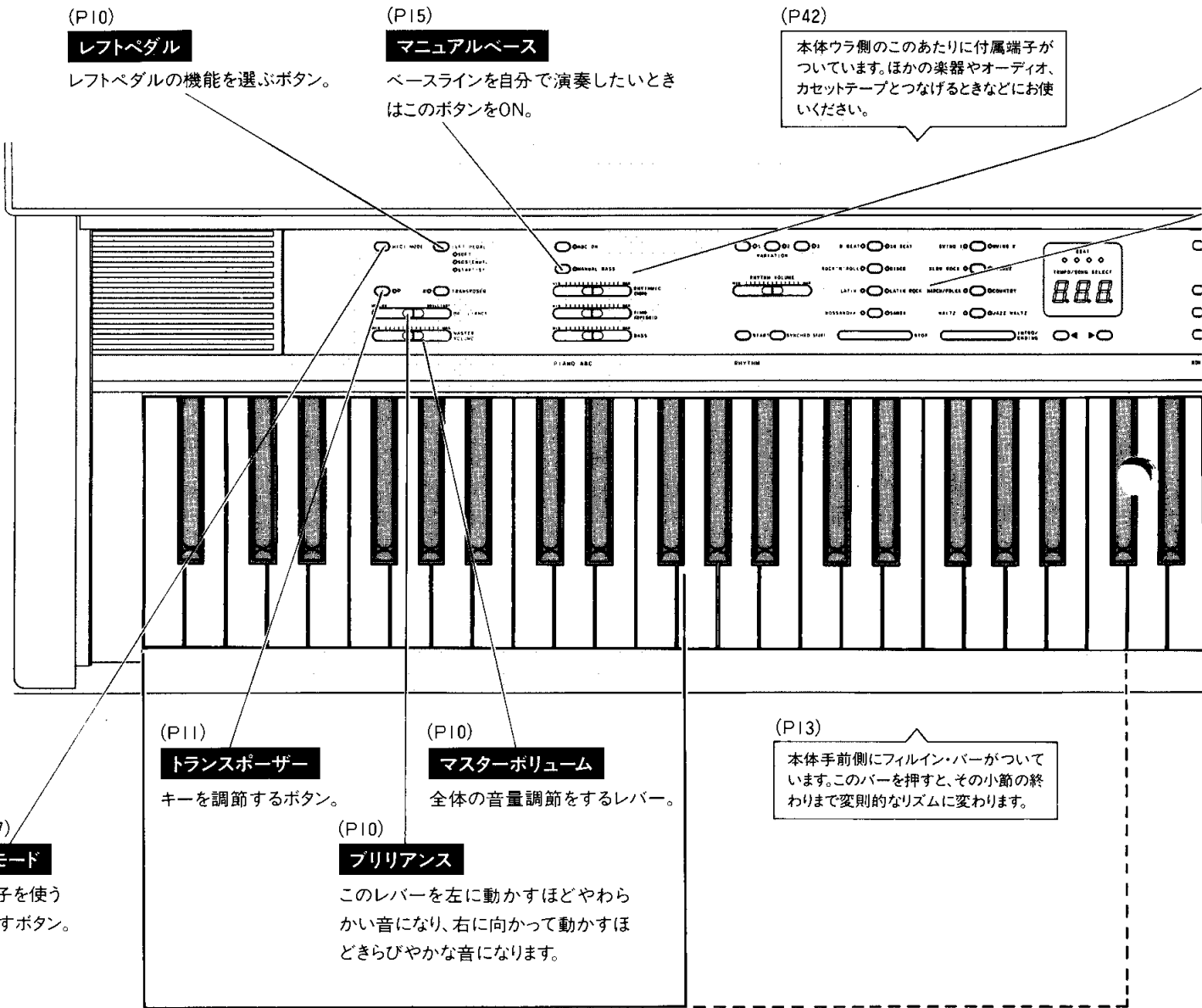
したく 2 **音を出す準備**

①パワースイッチをON。
②マスターボリュームを上げます。
③それ以外のボリュームも、とりあえずまん中くらいにしておきます。

マスターボリュームはここ ボリュームはすべてまん中くらいに



パワースイッチはここ



(P10) **レフトペダル**
レフトペダルの機能を選ぶボタン。

(P15) **マニュアルベース**
ベースラインを自分で演奏したいときはこのボタンをON。

(P42) 本体ウラ側のこのあたりに付属端子がついています。ほかの楽器やオーディオ、カセットテープとつなげるときなどにお使いください。

(P11) **トランスポーザー**
キーを調節するボタン。

(P10) **マスターボリューム**
全体の音量調節をするレバー。

(P13) 本体手前側にフィルイン・バーがついています。このバーを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズムに変わります。

(P36~37) **MIDIモード**
MIDI端子を使うときに押すボタン。

(P10) **プリリアンス**
このレバーを左に動かすほどやわらかい音になり、右に向かって動かすほどきらびやかな音になります。

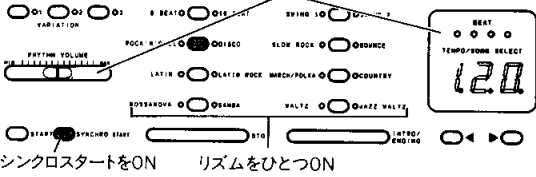
〈ピアノABC用鍵盤〉

自動伴奏をするときは、この鍵盤を使います。(A-1~C3)

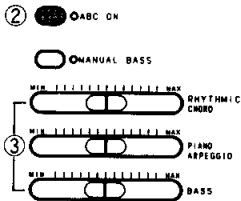
ピアノABC (P14) 自動伴奏にトライノ

ABCはオートベース/コード(Auto Bass Chord)の略。和音をおさえるだけで、リズムにのったコードとベースによる伴奏ができます。

ボリュームとテンポをセット



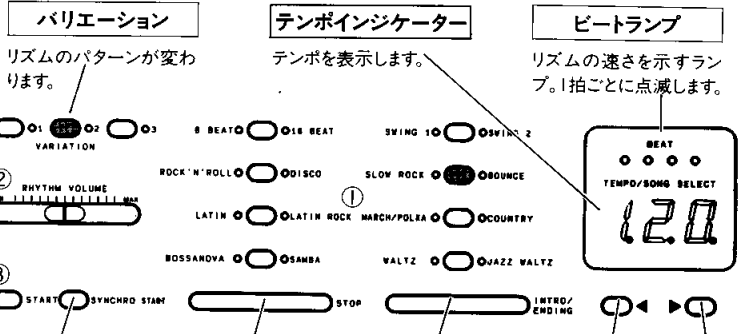
- ①リズムをセット。
- ②ABCオンのボタンを押します。
- ③ピアノABCのボリュームを調節。
- ④ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。



鍵盤をおさると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムにのってできましたネ。

リズム (P12~13) リズムを鳴らしましょう

演奏はリズムに合わせて。ノリにのったら、体で拍子をとってみましょう。



バリエーション
リズムのパターンが変わります。

テンポインジケータ
テンポを表示します。

ビートランプ
リズムの速さを示すランプ。1拍ごとに点滅します。

シンクロスタート
このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベースコード用鍵盤を押せば、リズムがスタート。

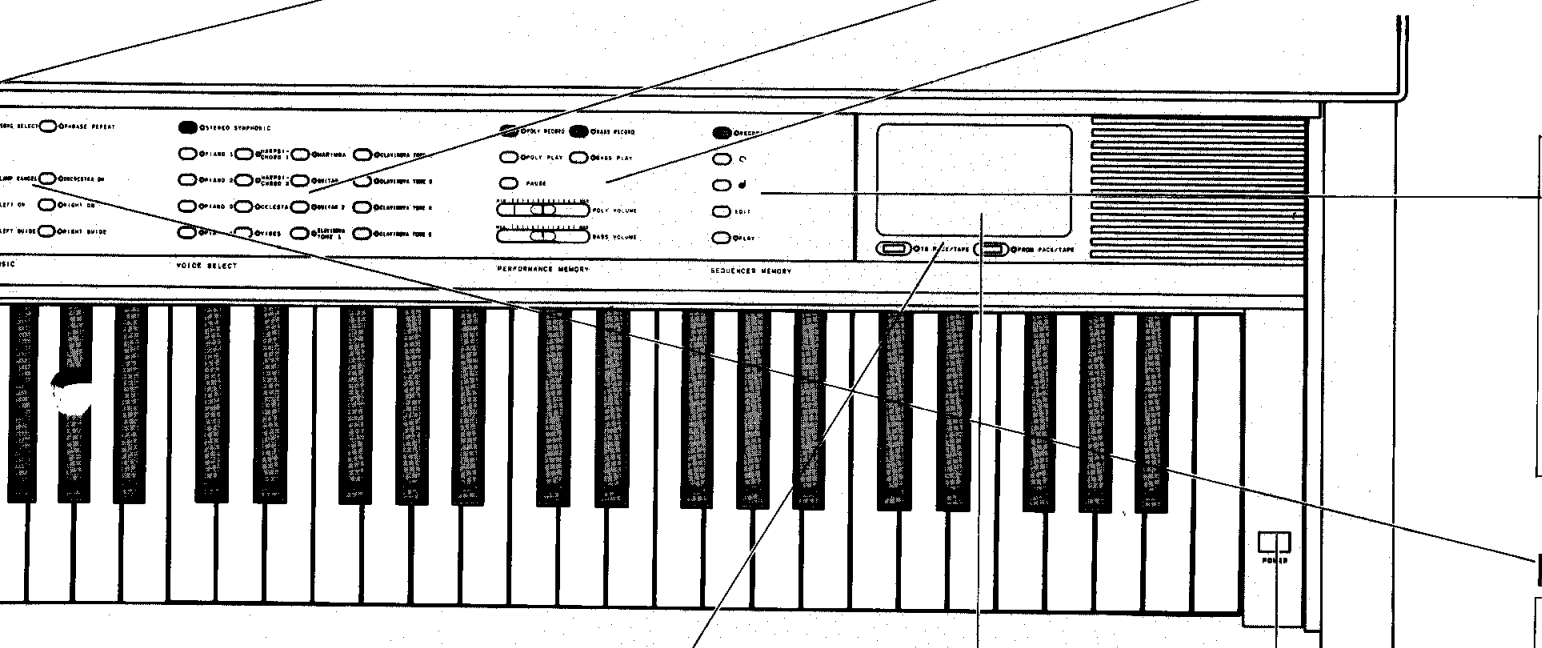
ストップ
演奏をストップさせるときに押すボタン。

イントロ/エンディング
イントロカウントでリズムをスタートさせるときや、演奏のおわりをキメたいときに押すボタン。

テンポがおそくなり速くなります。

テンポコントロール

- ①好きなリズムを選びます。
 - ②ボリュームをまん中くらいに。
 - ③スタートを押します。
- 選んだリズムが鳴りましたネ。



(P42) **ヘッドホン端子**
ヘッドホンを接続する端子。(左足の向こう側にあります。)

(P28-30) **RAMパック、RAMミュージックノートブック、カセットテープの操作のためのボタン。**

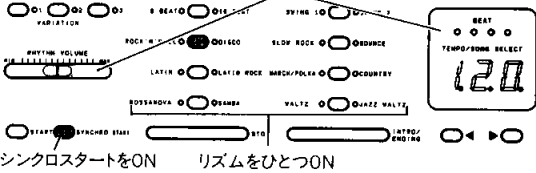
(P28) **RAMパックの差し込み口**

パワースイッチ
電源を入れるスイッチです。

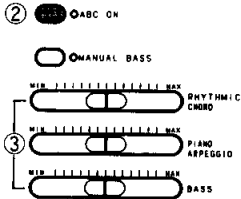
ピアノABC (P14) 自動伴奏にトライノ

ABCはオートベース/コード(Auto Bass Chord)の略。和音をおさえるだけで、リズムにのったコードとベースによる伴奏ができます。

ボリュームとテンポをセット



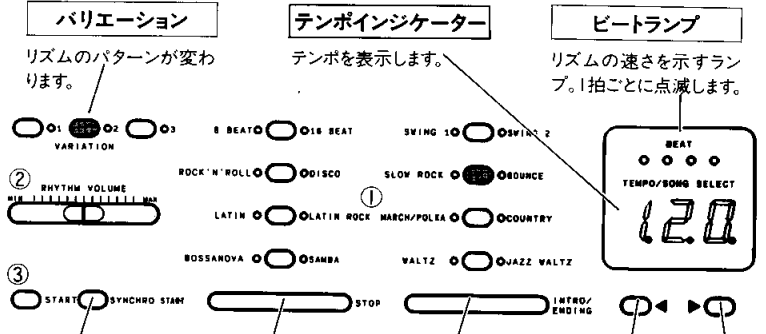
- ①リズムをセット。
- ②ABCオンのボタンを押します。
- ③ピアノABCのボリュームを調節。
- ④ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。



鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムにのってできましたネ。

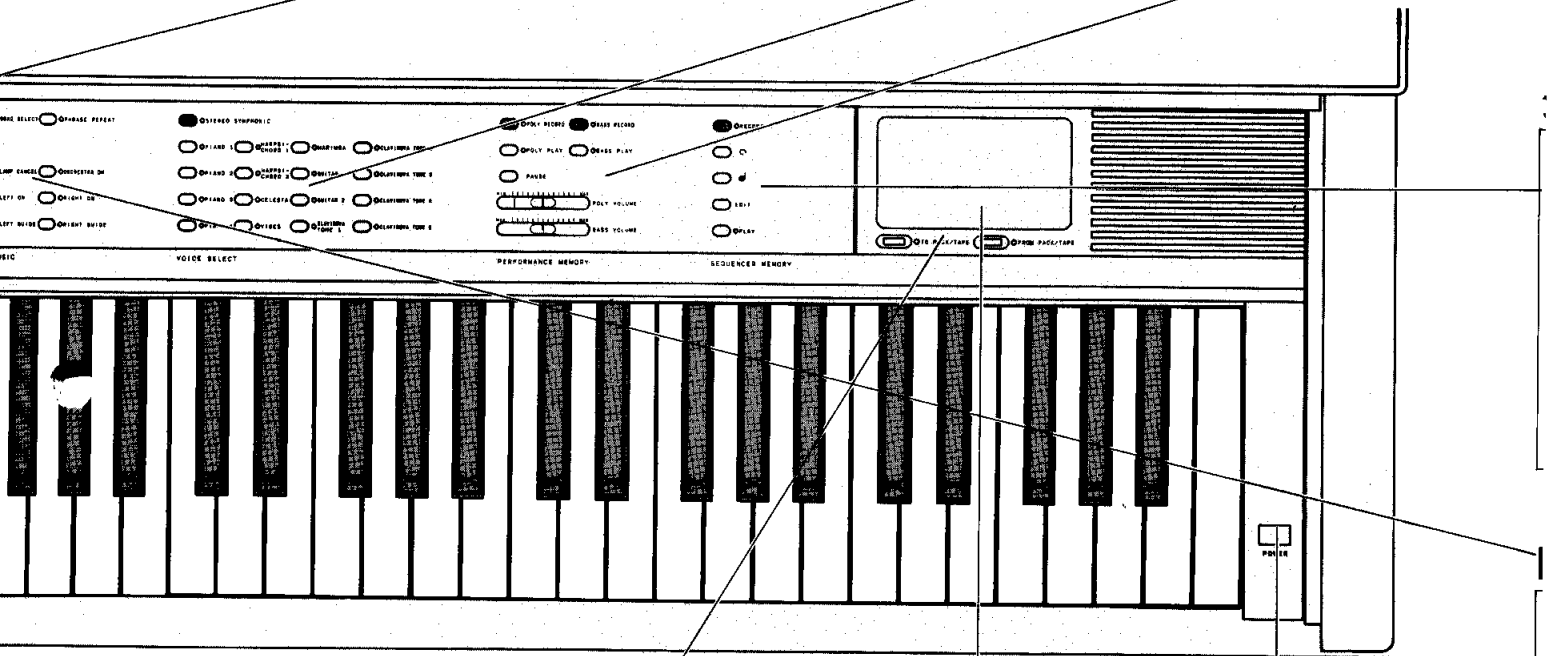
リズム (P12~13) リズムを鳴らしましょう

演奏はリズムに合わせて。ノリにのったら、体で拍子をとってみましょう。



- バリエーション**
リズムのパターンが変わります。
- テンポインジケータ**
テンポを表示します。
- ビートランプ**
リズムの速さを示すランプ。1拍ごとに点滅します。
- シンクロスタート**
このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベースコード用鍵盤を押せば、リズムがスタート。
- ストップ**
演奏をストップさせるときに押すボタン。
- イントロ/エンディング**
イントロカウントでリズムをスタートさせるときや、演奏のおわりをキメたいときに押すボタン。
- テンポコントロール**
テンポがおそくなり速くなります。

- ①好きなリズムを選びます。
 - ②ボリュームをまん中くらいに。
 - ③スタートを押します。
- 選んだリズムが鳴りましたネ。



(P42) **ヘッドホン端子**
ヘッドホンを接続する端子。(左足の向こう側にあります。)

(P28-30) **RAMパック、RAMミュージックノートブック、カセットテープの操作のためのボタン。**

(P28) **RAMパックの差し込み口**

パワースイッチ
電源を入れるスイッチです。

ボイスセレクト (P10) 音色を選びましょう

クラビノーバの音色は16種類。AWM音源とFM音源によるイキイキとした、ピアノやハーブシコードなどの楽器音が選べます。

STEREO SYMPHONIC ステレオシンフォニック

PIANO 1 CHORUS 1 MARIMBA CLAVINOLA TONE 2

PIANO 2 CHORUS 2 GUITAR 1 CLAVINOLA TONE 3

PIANO 3 CELESTA GUITAR 2 CLAVINOLA TONE 4

PIANO 4 VIBES CLAVINOLA TONE 5 CLAVINOLA TONE 5

好きな音色を選びましょう。

パフォーマンスメモリー (P20~23) 演奏情報をパート別にメモリー

ポリレコードにはメロディ、オブリガート、コードラインのいずれか1パート、そしてベースレコードにはベースラインをメモリー。両手で演奏するのが難しいときに片手ずつ演奏してあわせたり、音色を変えたりすると、ひとりでもゆたかなアンサンブル演奏が楽しめます。

[ポリパートを録音・再生]

- ボイスセレクトから好きな音色を選びます。
- ポリレコードをON。
- ポリボリュームで音量調節。
- リズムをセレクト。
- さあ、弾いてみましょう。
鍵盤を押すと同時に、録音開始。
- リズムのストップボタンを押して、メモリー完了。

POLY RECORD POLY PLAY PAUSE

① POLY RECORD POLY PLAY

② POLY RECORD POLY PLAY

③ PAUSE

記憶や再生の途中で一時停止したいときは、このボタンをON。

④ POLY RECORD POLY PLAY

⑤ POLY RECORD POLY PLAY

⑥ POLY RECORD POLY PLAY

⑦ POLY RECORD POLY PLAY

[ベースパートを録音・再生]

- ベースレコードとポリプレイをON。
- ベースボリュームで音量調節。
- さあ、弾いてみましょう。
ポリレコードで録音した演奏の再生に合わせて、ベースラインを演奏しましょう。
- リズムのストップボタンを押して、メモリー完了。
- ベースプレイを押し、リズムのスタートボタンを押して、メモリーしたベースラインを聞いてみましょう。

シーケンサーメモリー (P24~25) コードラインをラクラク・メモリー

コード進行が複雑で演奏が難しい曲も、シーケンサーメモリーを使ってコードラインをあらかじめメモリーさせておけばOK!

- RECORD
- EDIT
- PLAY

エディット
メモリーしなおしたいときに使うボタン。

- レコードをON。
- リズムをセレクト。
イントロ/エンディング、フィルインのメモリーもOK。
- ピアノABC用鍵盤をおさえながら、音符ボタンを押して、コードを進行順にメモリー。

- は1小節分、Jは1拍分。たとえばCコードを2小節分メモリーしたいときは、ソドミをおさえながら○のボタンを2回押しします
- メモリーが終わったら、もう1度レコードをON。
これでメモリー完了です。
 - プレイを押し、リズムのスタートボタンを押して、つくったコードを聞いてみましょう。

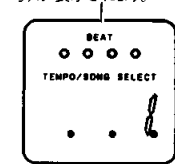
ROMミュージック (P17~19) ROMミュージックブックで、楽しくレッスン

ROMミュージックブックを使って自動演奏を聴いたり、ガイドランプを見ながらひとりで楽しくキーボードプレイのレッスンをすることができます。

[クラビノーバの演奏を聴いてみましょう。]

- ROMミュージックブックの最後のページにあるROMチップを、クラビノーバのソケットにセット。
- ソングセレクトをON。
テンポインジケーターがソングセレクトインジケーターに変わり、テンポコントロールがソングセレクトコントロールに変わります。
- ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。
- リズムのスタートをON。
メトロノーム音のあと、自動演奏がスタートしましたネ。

ソングセレクトインジケーター
曲番号(またはフレーズ番号)が表示されます。



曲番号がひとつずつ少ない番号になります。 曲番号がひとつずつ多い番号になります。

ソングセレクトコントロール

[ガイドランプを追いかけて、片手パートを集中レッスン。]

- ソングセレクトをON。ソングセレクトコントロールで曲番号をセット。

SONG SELECT PHRASE REPEAT

LAMP CANCEL ORCHESTRA ON

LEFT ON RIGHT ON

LEFT GUIDE RIGHT GUIDE

- 右手のレッスンをするときにはライトガイドを、左手のレッスンをするときにはレフトガイドをON。
- リズムのスタートボタンをON。
- ガイドランプを追いかけて鍵盤を弾きましょう。

レフトオン

左手パートのレッスンのとき、OFFの状態に。

ライトオン

右手パートのレッスンのとき、OFFの状態に。

オーケストラオン

オブリガートパートのレッスンのとき、OFFの状態に。

クラビノーバ早わかり CVP-8

まずは、クラビノーバのアウトラインをつかみましょう。くわしくは()のページをご覧ください。

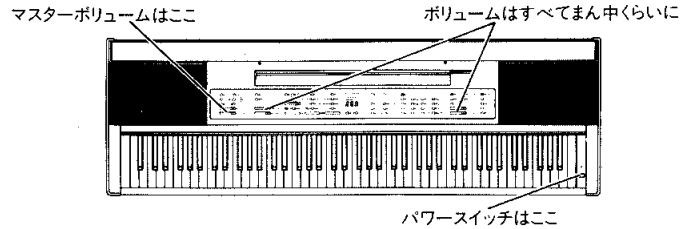
したく 1 まずはクラビノーバのセット。

- ①3ページの説明を読みながら、クラビノーバを組み立てます。
- ②電源に接続します。

★必ずAC100Vのコンセントから電源をとるようにしてください。

したく 2 音を出す準備

- ①パワースイッチをON。
- ②マスターボリュームを上げます。
- ③それ以外のボリュームも、とりあえずまん中くらいにしておきます。



(P29~30)

RAMミュージックノートブック、カセットテープの操作のためのボタン。

(P36~37)

MIDIモード

MIDI端子を使うときに押すボタン。

(P11)

トランスポザー

キーを調節するボタン。

(P10)

ブリリアンス

このレバーを左に動かすほどやわらかい音になり、右に向かって動かすほどきらびやかな音になります。

(P10)

マスターボリューム

全体の音量調節をするレバー。

(P42)

ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続する端子。

(P15)

マニュアルベース

ベースラインを自分で演奏したいときは、このボタンをON。

〈ピアノABC用鍵盤

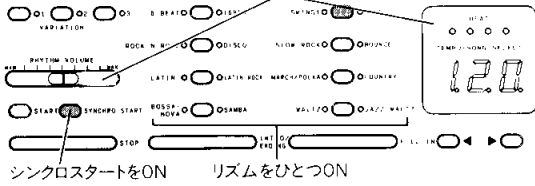
自動伴奏をするときは、この鍵盤を使い

ピアノABC

(P14) 自動伴奏にトライ!

ABCはオートベース/コード(Auto Bass Chord)の略。和音をおさえるだけで、リズムにのったコードとベースによる伴奏ができます。

ボリュームとテンポをセット



- ①リズムをセット。
- ②ABCオンのボタンを押します。
- ③ピアノABCのボリュームを調節。
- ④ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。

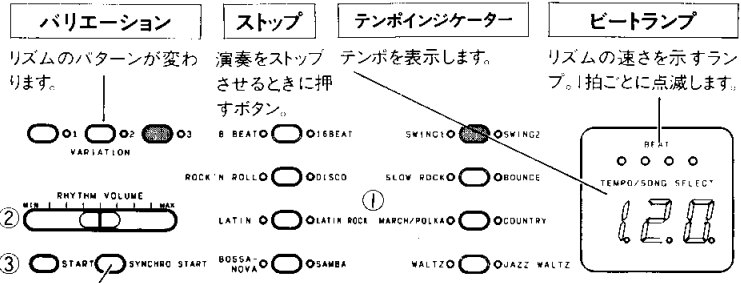


鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムにのってでてきました。

リズム

(P12~13) リズムを鳴らしましょう。

演奏はリズムに合わせて。ノリにのったら、体で拍子をとってみましょう。



- ② RHYTHM VOLUME
- ③ START

シンクロスタート このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベースコード用鍵盤を押せば、リズムがスタート。

イントロ/エンディング イントロカウントでリズムをスタートさせるときや、演奏の終わりをキメたいときに押すボタン。

フィルイン リズムが鳴っているときにこのボタンを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなります。

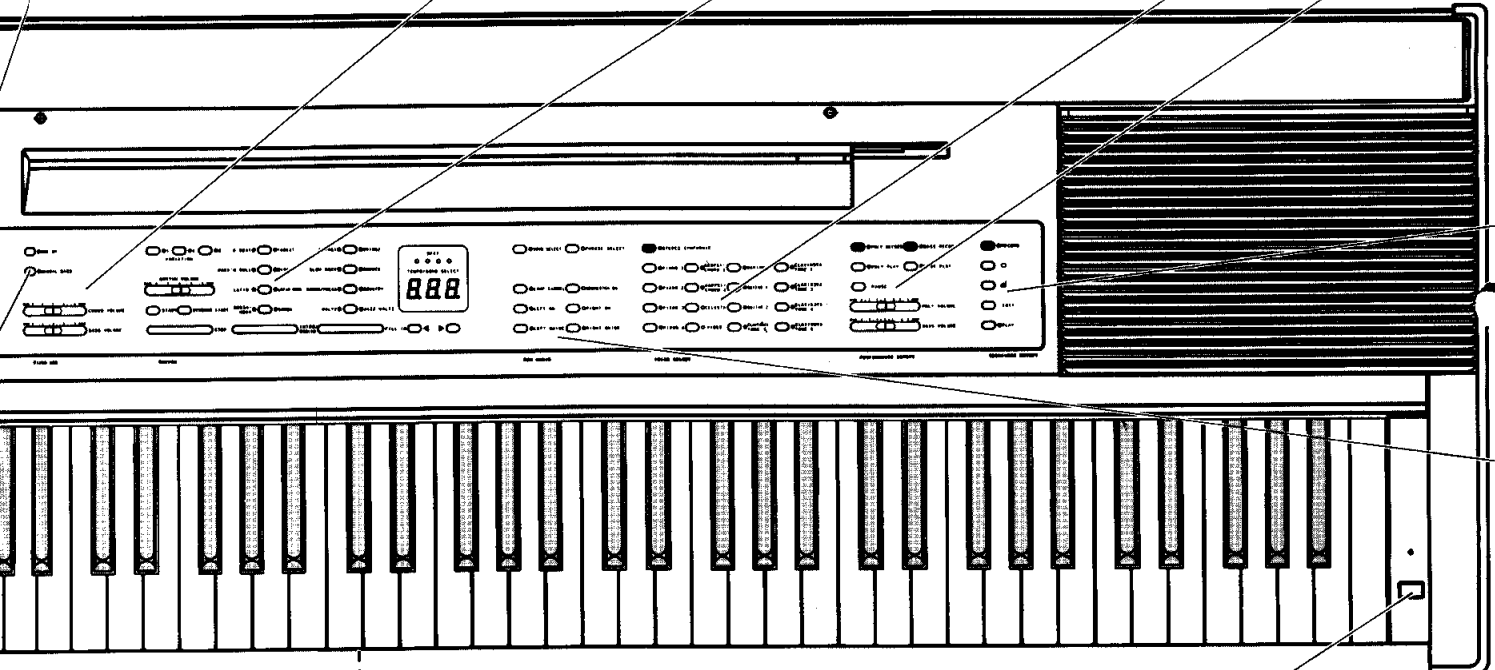
テンポコントロール テンポがおそくなります。テンポが速くなります。

- ①好きなリズムを選びます。
 - ②ボリュームをまん中くらいに。
 - ③スタートを押します。
- 選んだリズムが鳴りだしましたネ。

(P10) レフトペダル

レフトペダルの機能を選ぶボタン。(P42)

本体ウラ側のこのあたりに付属端子がついています。ほかの楽器やオーディオ、カセットテープとつなげるときなどにお使いください。



パワースイッチ
電源を入れるスイッチです。

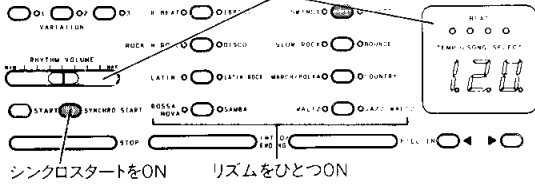
用鍵盤) を使います。(A₁~C₃)

ピアノABC

(P14) 自動伴奏にトライ!

ABCはオートベース/コード(Auto Bass Chord)の略。和音をおさえるだけで、リズムにのったコードとベースによる伴奏ができます。

ボリュームとテンポをセット



- ①リズムをセット。
- ②ABCオンのボタンを押します。
- ③ピアノABCのボリュームを調節。
- ④ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。

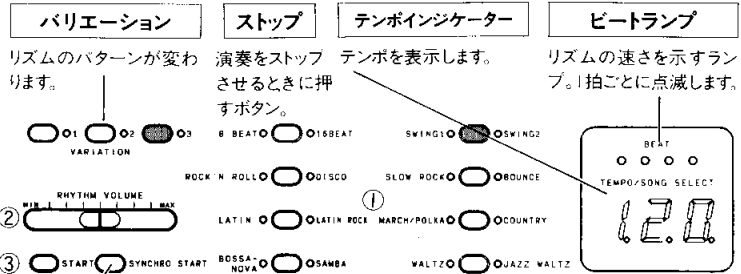


鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムにのってでてきましたネ。

リズム

(P12~13) リズムを鳴らしましょう。

演奏はリズムに合わせて。ノリにのったら、体で拍子をとってみましょう。



このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オート演奏のおわりをキメたいときに押すボタン。

イントロカウントでリズムをスタートさせるときや、演奏のおわりをキメたいときに押すボタン。

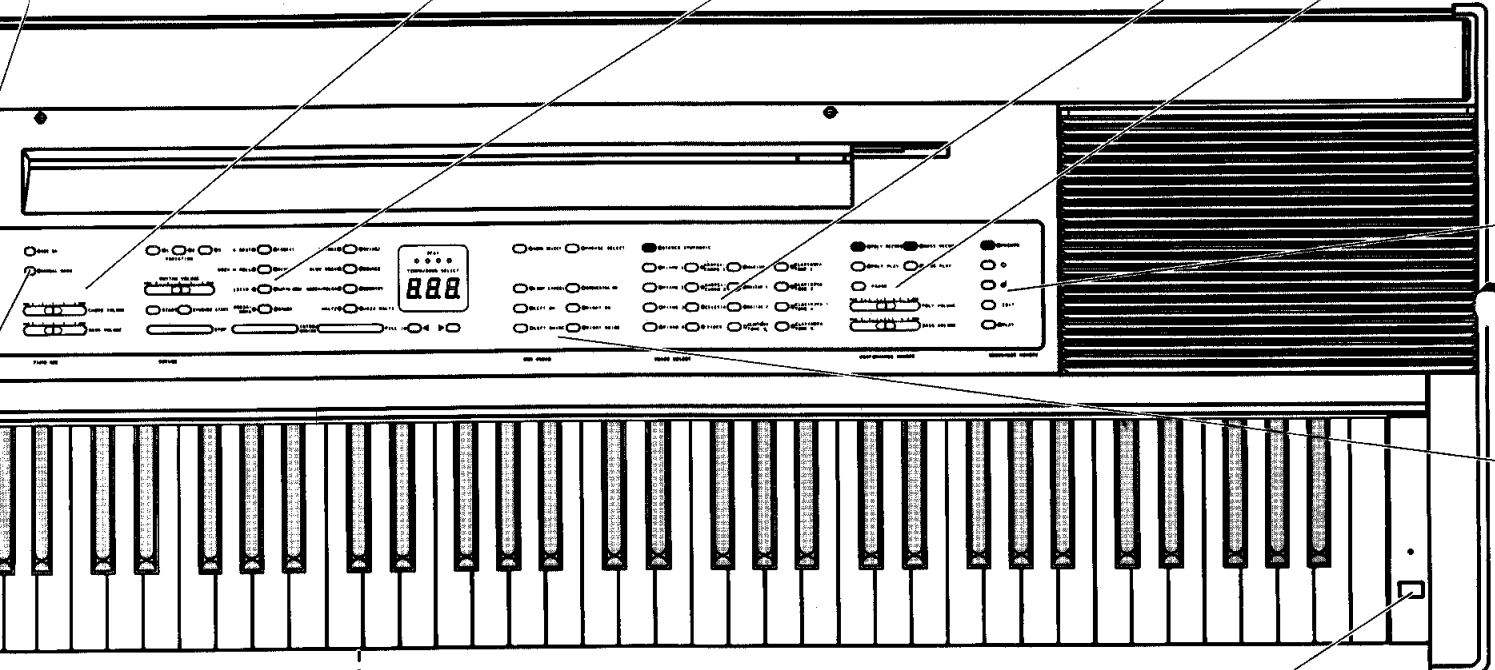
リズムが鳴っているときにこのボタンを押すと、その小節だけリズムがカットされます。

- ①好きなリズムを選びます。
 - ②ボリュームをまん中くらいに。
 - ③スタートを押します。
- 選んだリズムが鳴りだしましたネ。

レフトペダル

レフトペダルの機能を選ぶボタン。(P42)

本体ウラ側のこのあたりに付属端子がついています。ほかの楽器やオーディオ、カセットテープとつなげるときなどにお使いください。



パワースイッチ
電源を入れるスイッチです。

用鍵盤) を使います。(A₁~C₃)

ボイスセレクト (P10) 音色を選びましょう

クラビノーバの音色は16種類。AWM音源とFM音源によるイキイキとした、ピアノやハーブシコードなどの楽器音を選べます。

STEREOPHONIC ステレオシンフォニック

OPIANO 1 ○ HARPSCORD 1 ○ MARIMBA ○ CLAVINOVIA TONE 2

OPIANO 2 ○ HARPSCORD 2 ○ GUITAR 1 ○ CLAVINOVIA TONE 3

OPIANO 3 ○ CELESTA ○ GUITAR 2 ○ CLAVINOVIA TONE 4

OPIANO 4 ○ VIBES ○ CLAVINOVIA TONE 1 ○ CLAVINOVIA TONE 5

好きな音色を選びましょう

音にうおいをもたせ、広がりのある響きにするボタン。

パフォーマンスメモリー (P20~23) 演奏情報をパート別にメモリー

ポリレコードにはメロディ、オブリガート、コードラインのいずれか1パート、そしてベースレコードにはベースラインをメモリー。両手で演奏するのが難しいときに片手ずつ演奏してあわせたり、音色を変えたりすると、ひとりでもゆたかなアンサンブル演奏が楽しめます。

[ポリパートを録音・再生]

- ボイスセレクトから好きな音色を選びます。
- ポリレコードをON。
- ポリボリュームで音量調節。
- リズムをセレクト。
- さあ、弾いてみましょう。
鍵盤を押すと同時に、録音開始。
- リズムのストップボタンを押して、メモリー完了。

② POLY RECORD ○ BRASS RECORD ①

⑦ POLY PLAY ○ BRASS PLAY ⑤

③ PAUSE ①

③ POLY VOLUME

③ BASS VOLUME ②

ポーズ
記憶や再生の途中で一時停止したいときは、このボタンをON。

⑦ POLY PLAY を押し、リズムのスタートボタンを押して、メモリーした演奏を聞いてみましょう。

[ベースパートを録音・再生]

- ベースレコードとポリプレイをON。
- ベースボリュームで音量調節。
- さあ、弾いてみましょう。
ポリレコードで録音した演奏の再生に合わせて、ベースラインを演奏しましょう。
- リズムのストップボタンを押して、メモリー完了。
- ベースプレイを押し、リズムのスタートボタンを押して、メモリーしたベースラインを聞いてみましょう。

シーケンサーメモリー (P24~25) コードラインをラクラクメモリー

コード進行が複雑で演奏が難しい曲も、シーケンサーメモリーを使ってコードラインをあらかじめメモリーさせておけばOK!

④ RECORD

③ EDIT

⑤ PLAY

エディット
メモリーしなおしたいときに使うボタン。

- レコードをON。
- リズムをセレクト。
イントロ/エンディング、フィルインのメモリーもOK。
- ピアノABC用鍵盤をおさえながら、音符ボタンを押して、コードを進行順にメモリー。

- は1小節分、●は1拍分。たとえばCコードを2小節分メモリーしたいときは、ソドミをおさえながら○のボタンを2回押します
- メモリーが終わったら、もう1度レコードをON。
これでメモリー完了です。
 - プレイを押し、リズムのスタートボタンを押して、つくったコードを聞いてみましょう。

ROMミュージック (P17~19) ROMミュージックブックで、楽しくレッスン

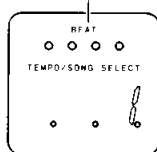
ROMミュージックブックを使って自動演奏を聴いたり、ガイドランプを見ながらひとりで楽しくキーボードプレイのレッスンをすることができます。

[クラビノーバの演奏を聴いてみましょう。]

- ROMミュージックブックの最後のページにあるROMチップを、クラビノーバのソケットにセット。
- ソングセレクトをON。
テンポインジケーターがソングセレクトインジケーターに変わり、テンポコントロールがソングセレクトコントロールに変わります。
- ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。
- リズムのスタートをON。
メトロノーム音のあと、自動演奏がスタートしましたネ。

ソングセレクトインジケーター

曲番号(またはフレーズ番号)が表示されます。



曲番号がひとつずつ少ない番号になります。 曲番号がひとつずつ多い番号になります。

ソングセレクトコントロール

[ガイドランプを追いかけ、片手パートを集中レッスン。]

- ソングセレクトをON。ソングセレクトコントロールで曲番号をセット。

SONG SELECT ○ PHRASE SELECT

② ①

○ LAMP CANCEL ○ ORCHESTRA ON

○ LEFT ON ○ RIGHT ON

○ LEFT GUIDE ○ RIGHT GUIDE

- 右手のレッスンをするときにはライトガイドを、左手のレッスンをするときにはレフトガイドをON。
- リズムのスタートボタンをON。
- ガイドランプを追いかけて鍵盤を弾きましょう。

レフトオン

左手パートのレッスンのとき、OFFの状態に。

ライトオン

右手パートのレッスンのとき、OFFの状態に。

オーケストラオン

オブリガートパートのレッスンのとき、OFFの状態に。

基礎編 PART1

好きな音色で弾いてみましょう

1 パワースイッチをON。



★パワースイッチをONした時は、いつもピアノの音色と8ビートのリズムが選ばれます。

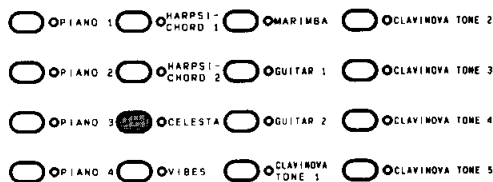
★スイッチを押した後、約3秒後くらいに音が出る状態になります。

2 マスターボリュームを調節。



★マスターボリュームは、全体の音量を調節します。

3 ボイスセレクトから好きな音色をひとつ選んでON。



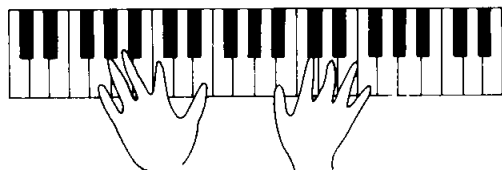
★2つの音色を同時に選んでミックスさせることはできません。

クラビノーバトーンは、こんなイメージの音色です。

クラビノーバトーン1	フルート系	クラビノーバトーン4	ジャズオルガン系
クラビノーバトーン2	ブラス系	クラビノーバトーン5	パイプオルガン系
クラビノーバトーン3	ストリングス系		

4 鍵盤を弾いてみましょう。

いろいろな音色で弾いてみましょう。



★鍵盤タッチの強弱によって、音の強さを調節することができます。

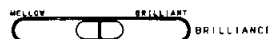
★CVP-10は16音ポリフォニック、CVP-8は12音ポリフォニック。つまり、16(または12)の鍵盤まで同時におさえて鳴らすことができます。

5 ステレオシンフォニックを加えてみましょう。

STEREO SYMPHONIC

音にうるおいをもたせ、広がりのある響きにします。曲想に応じて、ご使用ください。

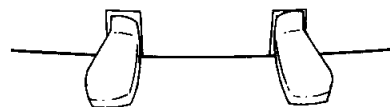
6 ブリリアンスを調節してみましょう。



← 左に向かって動かすほどやわらかい音になります。

→ 右に向かって動かすほどきらびやかな音になります。

7 ペダルを使ってみましょう。

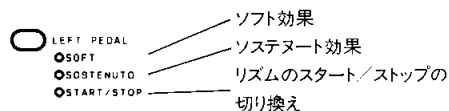


レフトペダル

パネル面のレフトペダルのボタンによって、ペダルを踏んでいる間ソフト効果、ソステヌート効果、リズムのスタート/ストップの切り換えのうち、いずれかひとつの機能をもたせることができます。

ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間、音に余韻がつきます。(ペダルを押し込む深さによって、余韻の長さが4段階に分かれています。ピアノのハーフペダルの使用方もできます。)



<ダンパー効果>

ダンパーペダルを踏むと、ピアノのダンパーペダルのように使用でき、音に余韻を持たせ豊かな響きにします。調節は4段階に分かれています。

<ソフト効果>

ソフト効果を選んだ場合にレフトペダルを踏むと、ピアノのソフトペダルのように使用でき、音をやわらかな響きにします。

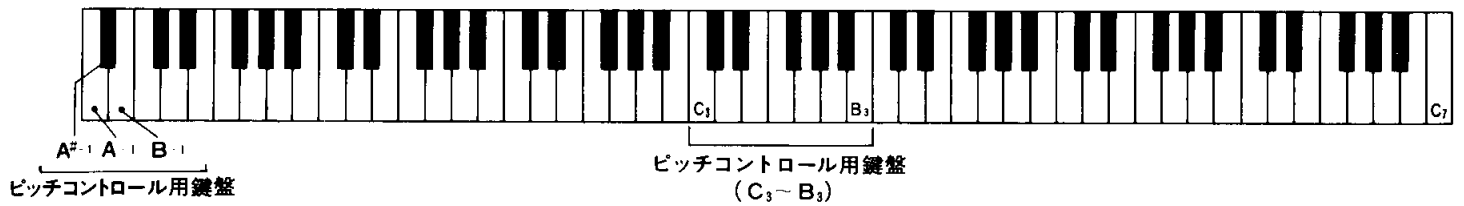
<ソステヌート効果>

ソステヌート効果を選んだ場合、レフトペダルを踏んだ時点でおさえていた鍵盤の音のみに、ダンパーと同じ豊かな響きをもたせることができます。(ペダルを踏んだあとでおさえた鍵盤の音には、ソステヌート効果はかかりません。)

<リズムのスタート/ストップの切り換え>

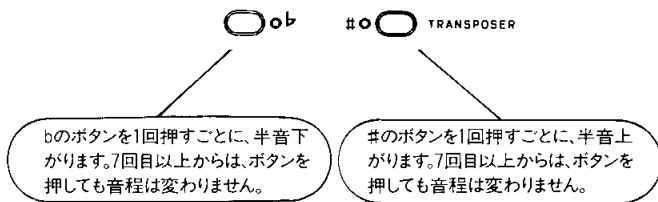
スタート/ストップを選んだ場合、リズムが鳴っている時にレフトペダルを踏むとリズムがストップし、リズムが止まっている時にレフトペダルを踏むとリズムが鳴り出します。

トランスポーザーとピッチコントロール



トランスポーザー

トランスポーザーは、歌の伴奏をする時に歌う人の声の高さにキーを合わせるなど、移調を簡単に行うことができます。



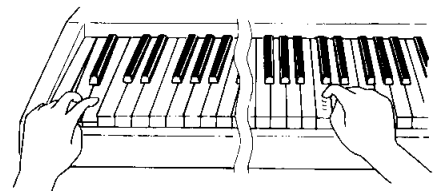
- ★上下とも、それぞれ半オクターブまで音程を変えることができます。
- と#のボタンを同時に押すと、もとの音程(A₃=440Hz)にもどります。また、パワースイッチを切っても、同様にもとの音程にもどります。

ピッチコントロール

他の楽器と音程を合わせてアンサンブルをする時などに、ピッチコントロール用鍵盤を使って微妙な音程を調節することができます。

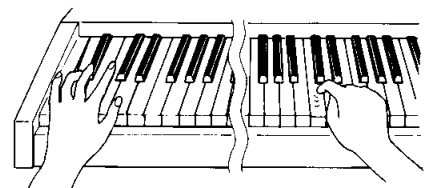
<ピッチを上げる時>

上の図で示した左はじの白鍵2音を同時に押したまま、中央のド～シ(C₃～B₃)の鍵盤のいずれか1音を押します。押すごとに音が鳴り、ピッチが上がっていきます。



<ピッチを下げる時>

左はじの白鍵と黒鍵を同時に押したまま、中央のド～シ(C₃～B₃)の鍵盤のいずれか1音を押します。押すごとに音が鳴り、ピッチが下がっていきます。



- ★上下とも、1回押すごとに約3セント音程が変化します。可変幅は約±50セントです。
- ★いったんパワースイッチを切ると、もとの音程(A₃=440Hz)にもどります。

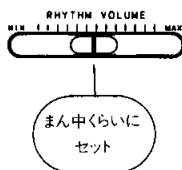
リズムにあわせて弾いてみましょう

1 リズムセレクトから好きなリズムをひとつ選んでON。



- ★同じボタンをもう一度押せば、左右反対がわのリズムが選べます。
- ★2つ以上のリズムを組み合わせることはできません。

2 リズムボリュームを調節。



- ★リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあると、リズムの音は出ません。マスターボリュームが最小の位置にあると、リズムボリュームを最大にしてもごく小さな音になります。

3 スタート、シンクロスタートのどちらかをON。



<スタート>

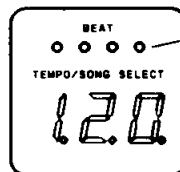
ボタンを押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

<シンクロスタート>

このボタンを押すと演奏スタンバイの状態となり、ビートランプの1拍目が点滅してリズムの速さを示します。ピアノABC用鍵盤(いちばん左側の鍵盤から、電源を入れた時はF#1の鍵盤まで。14~15ページのピアノABC・マニュアルベースを使う時には、鍵盤ガイドランプの点灯している鍵盤まで)を押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

- ★シンクロスタートのボタンを使うと、ビートランプでテンポを確認して、メロディとリズムを同時にスタートさせることができます。
- ★シンクロスタートのボタンをもう一度押すとリズムが止まり、再び演奏スタンバイ状態にもどります。ブレイクなどの時に便利です。

4 テンポコントロールで、リズムの速さを調節。



ビートランプ
左から右へ1拍ごとにランプが点滅し、リズムの速さを示します。

テンポインジケータ
現在のテンポが、1分間に何拍打つ速さ(=)であるかを表示します。(可変幅は、=32~280)



テンポコントロール

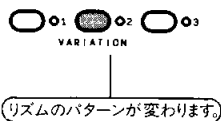
◀のボタンを押すとテンポが遅くなり、▶のボタンを押すとテンポが速くなります。

- ★テンポコントロールの◀と▶のボタンを同時に押すと、電源投入時の速さ(=120)にもどります。
- ★テンポインジケータは、ROMミュージックのソングセレクトかフレーズリピート、シーケンサーメモリーのレコードボタンを押した時は、テンポを表示しません。
- ★リズムを止める時は、ストップを押します。

●リズムのスタート/ストップは、レフトペダルでも行うことができます。
➡10ページをご覧ください。

リズムに変化をつけましょう

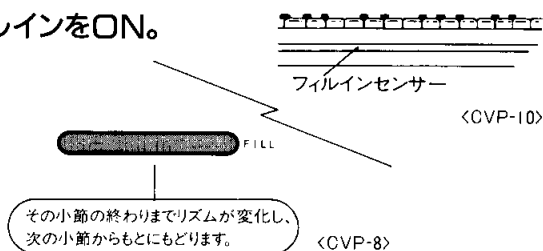
5 バリエーション(1~3)のボタンをいろいろ押してみましょう。



つまり、このバリエーションのボタン1~3を使うことによって、1つのリズムに対して3種類、合計 $16 \times 3 = 48$ 種類のリズムパターンが選べるようになります。

★電源投入時はバリエーション1にセットされています。

6 フィルインをON。

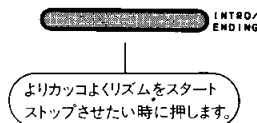


フィルインは、メロディーの切れ目などに押すと、グッと演奏がもりあがります。

★フィルインでリズムをスタートさせることもできます。まずシンクロスタートを押し、それからフィルインを押してください。ビートランプの1拍目が点滅、2拍目が点灯し、フィルインでリズムがスタートすることを示します。

★フィルインを押し続けると、変則的なリズムが長く続きます。

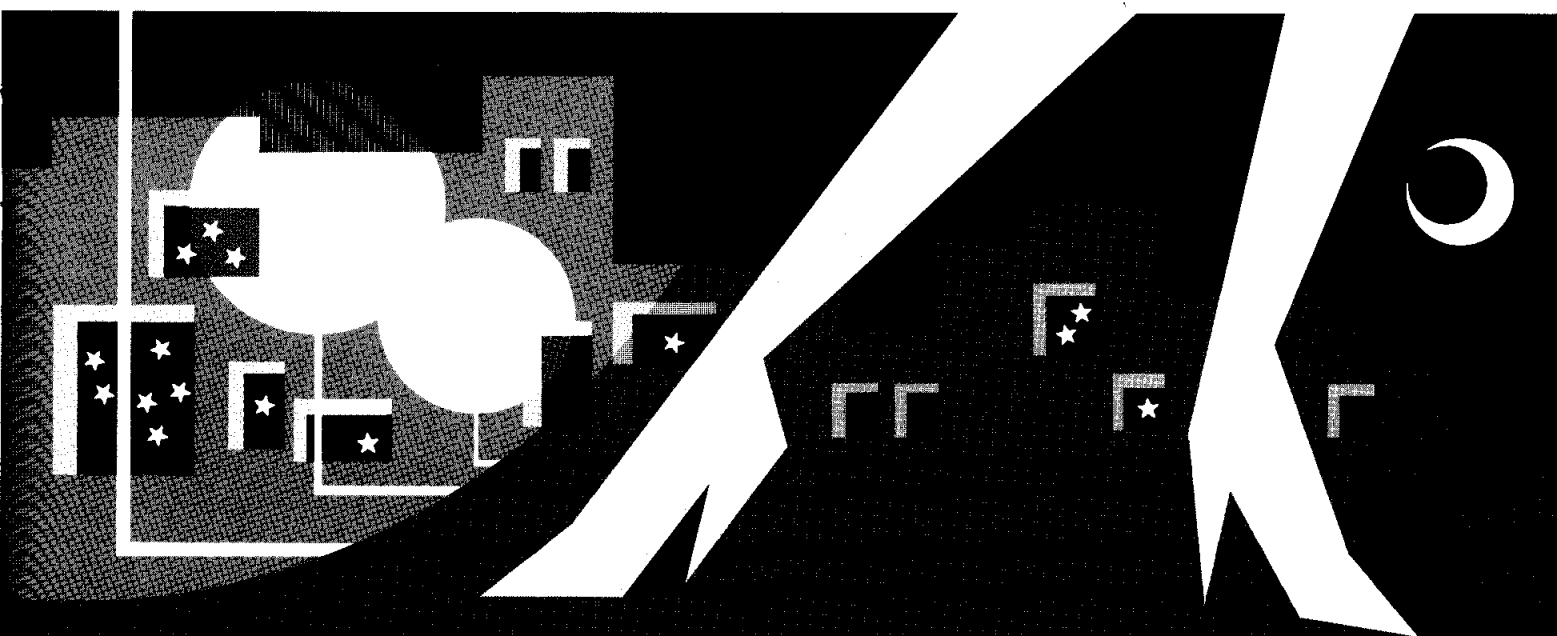
7 イントロ/エンディングをON。



イントロとして使う時は、カウントをとってからリズムがスタート。テンポを確認して演奏をはじめます。また、曲の終わりに使用すると、カッコよくエンディングをキメることができます。

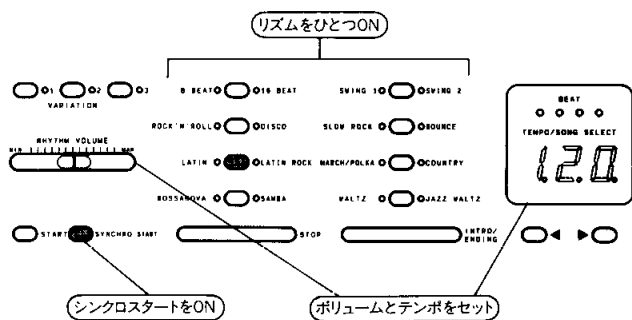
★リズムストップ中にイントロ/エンディングをONすると、リズムが2小節のイントロパターンでスタートします。

★リズムが鳴っている間にイントロ/エンディングをONすると、次の小節(1小節)が終わったあと、リズムがストップします。また、小節の後半にONすると、次の小節の頭からエンディングのパターンとなります。



ピアノABCで伴奏をつけましょう

1 リズムをセット。



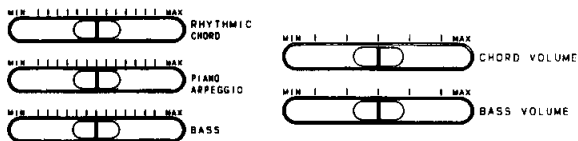
2 ABCオンのボタンを押します。



ピアノABCスイッチをONにすると、F#1の上のガイドランプが点灯します。そのランプより低音域がピアノABC用鍵盤です。

★ピアノABC用鍵盤と、メロディを弾く鍵盤とのスプリット点は、(E₀~C₃)のいずれかの場所に変更することができます。たとえば、G₂をスプリット点にしたい場合は、リズムを止め、ABCオンとマニュアルベースのボタンをOFFの状態にし、G₂の鍵盤をおさえながらABCオンのボタンを押します。

3 ピアノABCのボリュームを調節。



★CVP-10のリズミックコード、ピアノアルペジオ、ベース、CVP-8のコードボリューム、ベースボリュームが最小(MIN)の位置にあると、その音は出ません。

4 ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。

鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムに合わせてできます。



★鍵盤から指を離れたあとも、同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおさえてください。

★コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

★ピアノABCの音色は、音色セレクターで選んだ音色とは関係ありません。また、リズムをスタートさせていなくても、ピアノABCスイッチがONされていると、ピアノABC用鍵盤から、音色セレクターで選んだ音色は鳴りません。

★伴奏を止めるときは、リズムのストップを押します。

★認識するコードは次の8種類ですが、C₆とAm₇のように同じ構成音のコードの場合、最低音が6thの根音になっている場合はこれをシックスコードとみなし、その他の押鍵はすべてm⁷として認識します。

〈例〉Cコードの場合

C, Cm, Cm₇, C₆, Cm₇, Cm₇⁻⁵, C₇, C₇SUS₄

但しピアノアルペジオ(CVP-10)、コード(CVP-8)については

M₇ → M

m⁷ → m

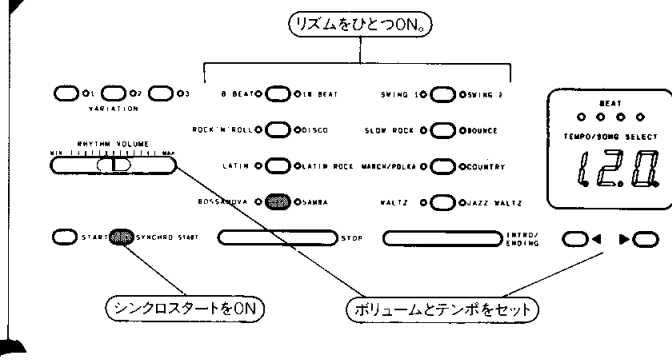
のコードパターンで演奏されます。

★ピアノABCがONのとき、メロディ部の鍵盤で同時におさえられるのはCV₁₀が10音、CVP-8は6音です。

★自動伴奏が鳴っている時にリズムのスタートボタンを押すと、自動伴奏が止まり、ピアノABC用鍵盤を押すまでブレイクの状態になります(リズムは止まりません)。

ベースラインを自分で弾きたいときは…

1 リズムをセット。



2 マニュアルベースをON。



3 ピアノABC用鍵盤でベースラインを演奏してみましょう。



左手でベース演奏、右手でコードを刻んで弾き語りをしたり、ベースラインに面白さがある曲を演奏するときなどに使いましょう。

★マニュアルベースのベース音色は、選んだリズムによって自動的にセットされます。

★マニュアルベースがONのとき、メロディ部の鍵盤で同時におさえられるのはCVP-10が14音、CVP-8が10音です。

転回テクニックでラクラク演奏

コード早見表(P16)には、コードのオタマについているアルファベット大文字が最低音になっているのっています。このようにアルファベット大文字、つまり専門用語で「ルート」とか「根音」と呼ばれる音をいちばん低い音にしたカタチをコードの「基本形」といいます。

〈例1〉

C 基本形	転回その1	転回その2

この転回のワザを身につけると、響きを楽しむと同時に、ピアノABCをつかう場合の演奏をラクにすることができます。〈例2〉を見てください。④はCコードもAmコードも基本の形。「ドミン」→「ラドミ」と変わります。次に⑤

では「転回形」とは何か、というと、音の積みかさねの順番をちょっと変えること。たとえば、〈例1〉のようにCメジャーコードを例にとると、基本形は「ドミン」ですが、それを転回して「ミソド」と弾いても「ソドミ」と弾いても、Cメジャーコードには変わらないのです。

の方は、Amコードに転回のワザを加えたもの。ソを押さえている指1本をとりながら動かすだけで、簡単にコードを変えることができます。

〈例2〉

C	Am	C	Am
④		⑤	
全部の指をおさえなおす		1本だけ	

コード早見表

※の転回形以外は、すべて基本形でのっています。15ページの転回テクニックをつかって、一番演奏しやすいカタチをおさえましょう。

メジャーコード	マイナーコード	セブンスコード	マイナーセブンスコード
C	Cm	C7	Cm7
D ^b (C [#])	D ^b m (C [#] m)	D ^b 7 (C [#] 7)	D ^b m7 (C [#] m7)
D	Dm	D7	Dm7
E ^b (D [#])	E ^b m (D [#] m)	E ^b 7 (D [#] 7)	E ^b m7 (D [#] m7)
E	Em	E7	Em7
F	Fm	F7	Fm7
F [#] (G ^b)	F [#] m (G ^b m)	F [#] 7 (G ^b 7)	F [#] m7 (G ^b m7)
G	Gm	G7	Gm7
A ^b (G [#])	A ^b m (G [#] m)	A ^b 7 (G [#] 7)	A ^b m7 (G [#] m7)
A	Am	A7	Am7
B ^b (A [#])	B ^b m (A [#] m)	B ^b 7 (A [#] 7)	B ^b m7 (A [#] m7)
B	Bm	B7	Bm7

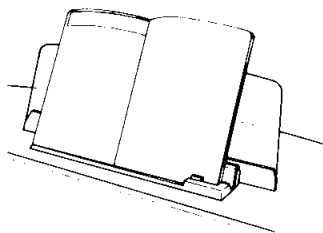
メジャーセブンスコード	シックスコード	マイナーセブンス フラットドフィフスコード	セブンスサス・フォーコード
Cmaj7	C6	Cm7 ⁻⁵	C7sus4
D ^b maj7 C [#] maj7)	D ^b 6 (C [#] 6)	D ^b m7 ⁻⁵ (C [#] m7 ⁻⁵)	C [#] 7sus4 (D ^b 7sus4)
Dmaj7	D6	Dm7 ⁻⁵	D7sus4
E ^b maj7 D [#] maj7)	E ^b 6 (D [#] 6)	E ^b m7 ⁻⁵ (D [#] m7 ⁻⁵)	E ^b 7sus4 (D [#] 7sus4)
Emaj7	E6	Em7 ⁻⁵	E7sus4
Fmaj7	F6	Fm7 ⁻⁵	F7sus4
F [#] maj7 (G ^b maj7)	F [#] 6 (G ^b 6)	F [#] m7 ⁻⁵ (G ^b m7 ⁻⁵)	F [#] 7sus4 (G ^b 7sus4)
Gmaj7	G6	Gm7 ⁻⁵	Gsus4
A ^b maj7 (G [#] maj7)	A ^b 6 (G [#] 6)	A ^b m7 ⁻⁵ (G [#] m7 ⁻⁵)	A ^b 7sus4 (G [#] 7sus4)
Amaj7	A6	Am7 ⁻⁵	A7sus4
B ^b maj7 (A [#] maj7)	*B ^b 6 (A [#] 6)	B ^b m7 ⁻⁵ (A [#] m7 ⁻⁵)	*B ^b 7sus4 (A [#] 7sus4)
Bmaj7	*B6	Bm7 ⁻⁵	*B7sus4

注) このコード早見表はピアノABC用ではありません。

ROMミュージックブックでレッスンを

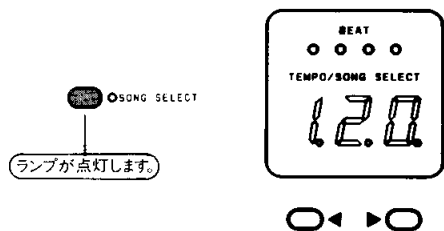
(まず、クラビノーバの演奏を聴きましょう。)

1 ROMミュージックブックをセット。



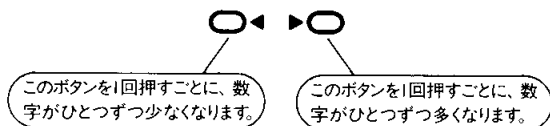
ROMミュージックブックの最後のページにあるROMチップをクラビノーバのソケットに差し込みます。

2 ソングセレクトをON。



★テンポインジケータがソングセレクトインジケータに変わり、曲番号が表示されます。(テンポコントロールも、ソングセレクトコントロールに変わります。)

3 ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。



★全曲をリピートしたい時は、曲番号を0にセットしてください。
★音量はマスターボリュームで調節します。

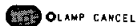
4 リズムのスタートをON。



ガイドランプが左から右に流れて、ROMミュージックブックのデータが本体に入力された後、1小節「チツ・チツ・チツ・チツ」とメトロノーム音が鳴り、自動演奏がスタート。左手と右手のパートのガイドランプが、曲にあわせて点灯します。曲が終わると、自動的に演奏が止まります。

1小節「チツ・チツ・チツ・チツ」とメトロノーム音が鳴り、自動演奏がスタート。左手と右手のパートのガイドランプが、曲にあわせて点灯します。曲が終わると、自動的に演奏が止まります。

★ランプキャンセルのボタンを押すと、ガイドランプが消えます。



★曲の途中でとめたいときは、リズムのストップを押します。



★自動演奏は、スタートさせる前のパネルの状態に関係なく演奏されます。
★リズムのスタートをONした後、テンポの調節や、リズムパターンの変更をすることができます。(自動演奏がストップした後、もう一度スタートさせると、変更した内容は自動的にキャンセルされます。)

(ガイドランプにしたがって演奏のレッスンをしましょう。)

1 ソングセレクトをON。ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。



2 ガイドのボタンをON。



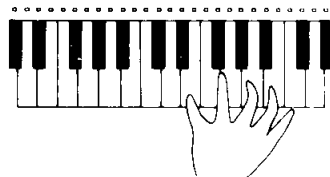
★両方のボタンを同時に押すことはできません。

3 リズムのスタートをON。



自動演奏がスタートしますが、イントロが終わると曲が止まってリズムがテンポをきざみ、演奏する鍵盤の上のガイドランプが点灯します。

4 ガイドランプを追いかけて鍵盤を弾きましょう。



ランプの点灯している鍵盤をおさえてみましょう。曲がすすんで別のランプがつかますね。このように次々とランプが弾く鍵盤をおさえてくれて、あなたの演奏にクラビノーバの演奏がついていきます。

★ランプは、正しい演奏のタイミングより1拍分(4分音符分)先行して点灯します。



「メロディーマスター編」と「コードマスター編」を活用して、ステップ by ステップで演奏をレベルアップ

クラビノーバには「メロディーマスター編」と「コードマスター編」の2冊のROMミュージックブックが付いています。鍵盤楽器ははじめて、という人はメロディーマスター編から、ピアノなどである程度鍵盤経験のある人は、コードマスター編から始めて、説明を読みながらマイペースで演奏をマスターして行きましょう。

ROMミュージックブックの内容

メロディーマスター編	曲 目	コードマスター編	曲 目
1. やさしいメロディーを弾いてみましょう	ROM-1 ラブミーテンダー ROM-2 エデンの東	1. ABCを使ってコードを覚えましょう	オブラディ オブラダ ビューティフル サンデー アンド アイラブ ハー
2. 左手でベースに挑戦	ROM-3 ジャンバラヤ ROM-4 サニー	2. いろいろなリズムにのってコードを覚えましょう	ROM-1 エンターティナー ROM-2 フラッシュダンス ROM-3 シャレード
3. メロディーを弾いてみましょう。	ROM-5 タラのテーマ 虹のかなたに	3. ラテンリズムにのってモダンなコードを覚えましょう	オリーブの首飾り オルフェの唄
4. 親指を支点にする指使い	ROM-6 イェスタデイ サウンド オブ ミュージック	4. シーケンサーメモリーを使って自動伴奏させてみましょう	スイートメモリーズより Fのブルース
5. 簡単な左手をメロディーに加えてみましょう	ROM-7 枯 葉 フライ ミートゥー ザムーン ROM-8 チムチムチェリー	5. パフォーマンスメモリーを使ってあなたの演奏を録音してみましょう	赤いスイトピー
6. 両手でメロディーを弾いてみましょう	ROM-9 渚のアデリーヌ	6. アルペジオで華麗にプレイしてみましょう	ROM-4 ミスターロンリー ROM-5 ある愛の詩
7. ペダルを活用したソロピアノ	白い恋人たち		

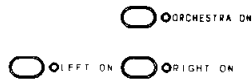
(マイナス・ワン演奏でレッスン)

1 ソングセレクトをON。ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。



2 レッスンしたいパートのオンボタンをOFF(ランプが消えた状態)にします。

- 右手パートのレッスン → ライトオンをOFF
- 左手パートのレッスン → レフトオンをOFF
- オブリガートパートのレッスン → オーケストラオンをOFF

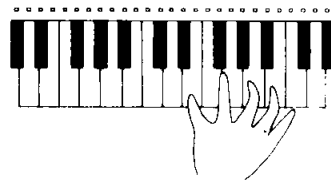


3 リズムのスタートをON。



リズムがテンポをきざみ、レッスンするパートで演奏する鍵盤の上のガイドランプが点灯します。(オーケストラパートはガイドランプが点灯しません。)

4 ガイドランプを追いかけて鍵盤を弾き、選んだパートを集中レッスンしましょう。



★ランプキャンセルのボタンを押すと、ガイドランプが点灯しなくなります。なれてきたらランプを消して、楽譜を見ながらレッスンしましょう。

(苦手なフレーズをくりかえしレッスンしたいときは…)

1 ソングセレクトをON。ソングセレクトコントロールを使って、選びたい曲の番号にセット。



2 フレーズリピートをON。



★ソングセレクトインジケーターにフレーズ番号が表示されます。

3 ソングセレクトコントロールを使って、くりかえしレッスンしたいフレーズを選びます。



このボタンを1回押すごとに、数字がひとつずつ少なくなります。

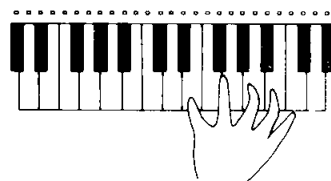
このボタンを1回押すごとに、数字がひとつずつ多くなります。

4 リズムのスタートをON。



リズムがテンポをきざみ、演奏する鍵盤の上のガイドランプが点灯します。

5 ガイドランプを追いかけて鍵盤を弾き、選んだフレーズをくりかえし練習しましょう。



★ランプキャンセルのボタンを押すと、ガイドランプが点灯しなくなります。なれてきたらランプを消して、楽譜を見ながらレッスンしましょう。

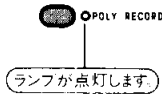
パフォーマンスメモリーで演奏を記憶させてみましょう

(メロディ、またはオブリガート、コードラインを録音し、再生してみましょう。)

1 ボイスセレクトから好きな音色を選びます。

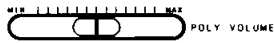
- PIANO 1 HARPSICHORD 1 MARIмба CLAYINOVA TONE 2
- PIANO 2 HARPSICHORD 2 GUITAR 1 CLAYINOVA TONE 3
- PIANO 3 CELESTA GUITAR 2 CLAYINOVA TONE 4
- PIANO 4 VIBES CLAYINOVA TONE 1 CLAYINOVA TONE 5

2 ポリレコードをON。



録音スタンバイ状態になり、メトロノーム音が1拍ごとに「チッチッチッチ」で鳴り出します。

3 ポリボリュームで音量を調節。



4 リズムをセット。

リズムをひとつON

VARIATION 8 BEAT 16 BEAT SWING 1 SWING 2

ROCK N ROLL DISCO SLOW ROCK BOUNCE

LATIN QUATIN ROCK MARCH/POLKA COUNTRY

BOXSANIVA OSANBA WALTZ JAZZ WALTZ

START SYNCHRO START STOP INTRO/ENDING

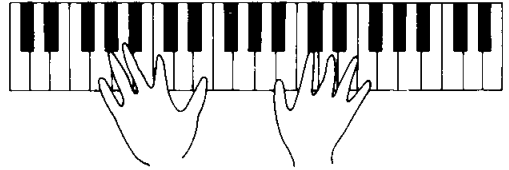
BEAT
TEMPO/SONG SELECT

120

テンポを調節。

- ★イントロ/エンディングで録音を開始した場合、再生時はやはりイントロ/エンディングボタンを押してスタートします(リズムのスタートボタンを押すと、イントロ部分の2小節が空白でスタートします)。
- ★テンポはあとで調節できるので、ゆっくりにしてもかまいません。
- ★このあとリズムのスタートボタンを押すと、すぐに録音が始まり、イントロ/エンディングボタンを押すと、2小節のイントロカウントから録音が始まります。

5 さあ、弾いてみましょう。



鍵盤を押すと同時に、録音が始まります。タッチまで演奏したとおりリアルタイムでメモリーされます。左手だけでなく、両手を使って演奏してもかまいません。

- ★「チッチッチッチ」というメトロノーム音で前もってテンポを確認しておく、スムーズに演奏を開始させることができます。
- ★鍵盤をおさえて同時に6音まで鳴り、メモリーします。
- ★パフォーマンスメモリーでは、演奏した内容と一緒につぎのものをメモリーします。
 - ボイスセレクト(演奏中の変更もメモリー)
 - リズムセレクト、リズムボリューム(演奏中の変更もメモリー)
 - テンポコントロール(演奏中の変更もメモリー可)
 - フィルイン、イントロ/エンディング
 - リズムのバリエーション
 - ステレオシンフォニック
 - ダンパーペダル、レフトペダル(ポリレコードのみ)
- ★ピアノABCやステレオシンフォニックをパフォーマンスメモリーにメモリーさせることはできません。

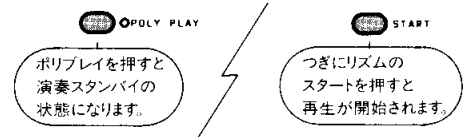
6 演奏が終わったらリズムのストップをON。



リズムが止まり、録音が終了します。

- ★ポリレコードのボタンをもう一度押しても、録音を停止させることができます。

7 演奏を再生させてみましょう。



- ★ピアノABC用鍵盤を押すことによっても、再生を開始させることができます。

16音モードへの変更 (CVP-8は12音モード)

ピアノ演奏をメモリーし、再生させて聞きたい場合などは、ポーズボタンを押しながらポリレコードボタンを押すと、同時に16音までメモリーできるようになります。

- ★ベースコード、およびシーケンサーメモリーとの併用はできません。
- ★このモードにセットした時点で、いままでメモリーされていた内容はすべて消去されます。
- ★ポリレコードのボタンをもう一度押すと、もとの状態にもどります。

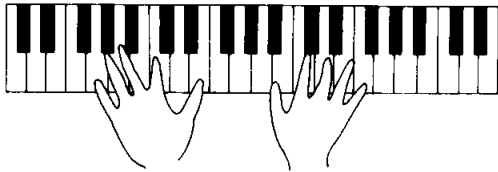
8音モードへの変更 (CVP-10のみ)

連弾の練習をしたい場合などは、ポリプレイボタンを押しながらポリレコードボタンを押すと、同時に8音までメモリーし、再生にあわせて演奏(同時に8音まで発音)ができるようになります。

- ★ポリレコードのボタンをもう一度押すと、もとの状態にもどります。

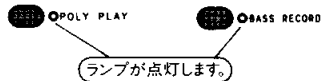
(ベースラインを録音し、再生してみましょう。)

1 ベースラインを弾く鍵盤とメロディを弾く鍵盤とのスプリット点を決めます。



リズムを止め、ABCオンとマニュアルベースのボタンがOFFの状態、C3以下のいずれかの鍵盤をおさえながらマニュアルベースのボタンを押します(スプリット点を特に設定しない場合は、マニュアルベースのボタンを押した時点で自動的にF#1にセットされます)。

2 ベースレコードとポリプレイをON。

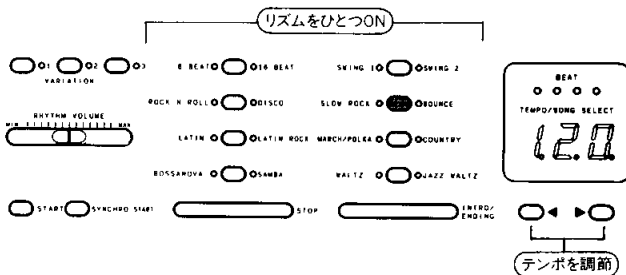


録音スタンバイ状態になり、メトロノーム音が鳴り出します。

3 ベースボリュームで音量を調節。

※ポリプレイをONしない場合のみ、4の操作を行います。

4 リズムをセット。



- ★ベース音色は、選んだリズムによって自動的に選ばれます。
- ★テンポはあとで調節できるので、ゆっくりにしてもかまいません。
- ★このあとリズムのスタートボタンを押すと、すぐに録音が始まり、イントロ/エンディングボタンを押すと、2小節のイントロカウントから録音が始まります。

5 さあ、弾いてみましょう。

ポリレコードで録音した演奏の再生に合わせて、ベースラインを演奏しましょう。



★鍵盤をおさえながら同時に2音以上発音し、メモリーすることはできません。

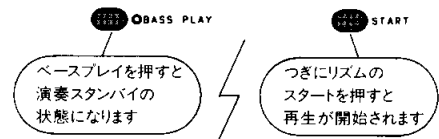
6 演奏が終わったらリズムのストップをON。



リズムが止まり、録音が終了します。

★ベースレコードのボタンをもう一度押しても、停止させることができます。

7 演奏を再生させてみましょう。

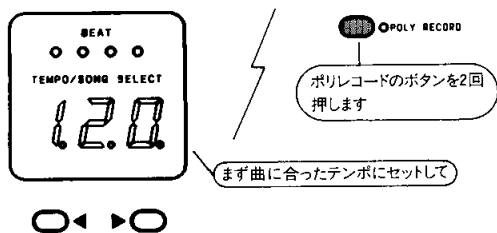


★ピアノ/ABC用鍵盤を押すことによっても、再生を開始させることができます。

(ポリレコード、ベースレコードにメモリーした演奏を同時に再生してみましょう。)

1 テンポを調節。

再生の場合、前もってテンポ調節をする場合には、つぎのような操作が必要です。



2 ポリプレイとベースプレイをON。



★ポリプレイ、またはベースプレイを押して、どちらか片方のパートだけを再生することもできます。

★再生にあわせて演奏をすることもできます。音色は、ボイスセレクトで自由に選べます。その際、同時におさえられる鍵盤数は以下の通りです。

プレイバック			ピアノ/ABC	同時におさえられる鍵盤数
ポリ	ベース	シーケンサーメモリー		
○	×	×	OFF	10 (6)
○	○	×	OFF	8 (4)
○	×	○	—	4 (—)
○	×	×	ON	4 (—)
○	○	○	—	4 (—)
○	○	×	ON	4 (—)
×	○	×	OFF	14 (10)
×	○	○	—	10 (6)
×	○	×	ON	10 (6)
×	×	○	—	10 (6)

※ ()内はCVP-8の同時押鍵数

3 リズムのスタートをON。



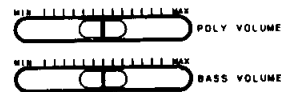
ポリとベースの演奏が同時に再生されます。

- ★ピアノ/ABC用鍵盤を押すことによっても、再生を開始させることができます。
- ★ポリレコードとベースレコードに違うリズムやテンポ、ボリュームの位置がメモリーされていると、すべてポリレコードでメモリーした内容で再生されます。
- ★メモリーさせたパフォーマンスメモリーのデータは、つぎのいずれかの操作を行わないかぎり、パワースイッチをOFFにしても約1週間保持されます。
 - ポリレコード、ベースレコードをONして演奏する、もしくはリズムをスタートする。
 - RAMパック(CVP-10のみ)、RAMミュージックノートブックまたはカセットテープからデータをロードする。
 - ROMミュージックブックを使用する。

※このような操作をする際、パフォーマンスメモリーにメモリーさせたデータを消したくない場合は、RAMパック(CVP-10のみ)、RAMミュージックノートブックもしくはカセットテープにセーブしてください。(くわしくは42ページの「付属端子とオプション」をご覧ください。)

- ★パフォーマンスメモリーのメモリー容量はポリ、ベース合わせて約4,000音符(CVP-8は約2,000音符)です。容量いっぱいまでメモリーすると、自動的に録音キャンセルされます。
- ★RAMミュージックノートブック(RA-8)にデータを記憶させる場合、メモリー容量は約1,000音符です。
- ★RAMパック(CVP-10のみ)のメモリー容量はクラビノーバと同じ32Kバイトなので、データを記憶させる場合、メモリーオーバーすることはありません。
- ★再生しているとき、リズムやテンポは変えることができますが、音色を変えことはできません。

4 ボリュームのバランスを調節。



ポリボリュームとベースボリュームを調節してバランスをとりましょう。メモリーした演奏が終わると、再生は自動的に止まります。

(メモリーした演奏を途中から変更するには…)

1 演奏を再生し、聴きながらメモリーしなおしたいところの前でポーズをON。



演奏がストップし、ポーズをONしたタイミングのビートランプが4分音符単位で点滅します。

★録音中にポーズを押して演奏をストップさせることもできます。

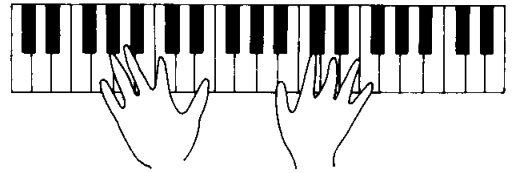
2 メモリーしなおしたいポリまたはベースのレコードボタンをON。



録音スタンバイ状態になっています。

★このとき、音色の変更をすることもできます。(ただし、ベースの場合はリズムパターンも変わるようになります。)

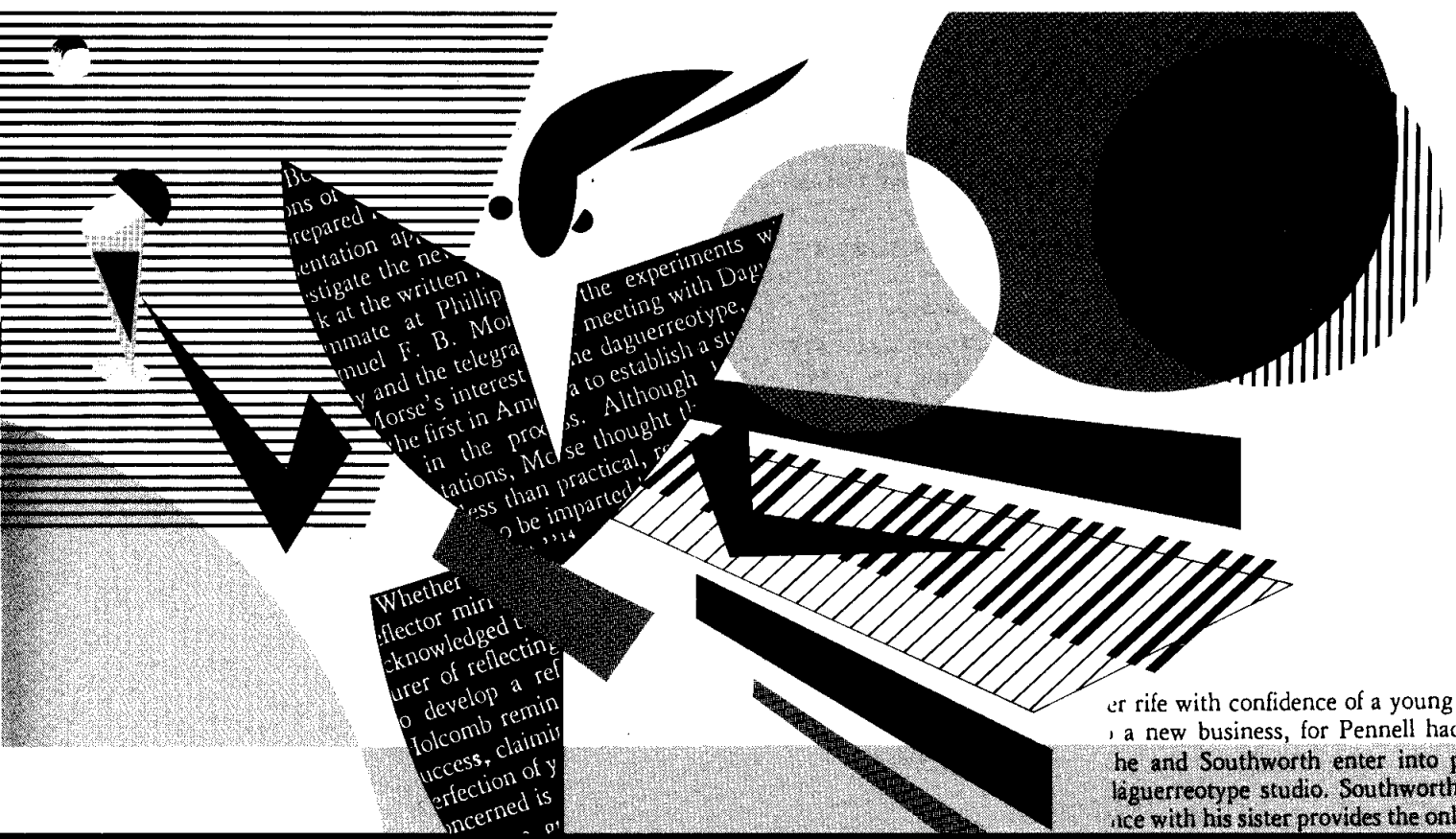
3 鍵盤を弾いて、メモリーしなおします。



最後まで演奏してください。部分的な変更はできません。

★ポーズ状態は、つぎの操作によって解除させることができます。

- 鍵盤を押す。
- もう一度ポーズのボタンを押す。
- リズムのスタート、またはストップのボタンを押す。



er rife with confidence of a young man
a new business, for Pennell had al
he and Southworth enter into part
lagueerreotype studio. Southworth's c
nce with his sister provides the only re

シーケンサーメモリーでコードをおぼえさせてみましょう

(コードをメモリー)

1 リズムをセット。

2 レコードをON。

ピアノABCスイッチが自動的にONされます。

★テンポ/ソングセレクトインジケーターにメモリーしたのが何小節目であるかが表示されます。

3 ピアノABC用鍵盤でコードをおさえたままで、音符ボタンを押してメモリーします。

○は1小節、♪は1拍分、そのコードをメモリーします。

- ★2拍分メモリーするときは鍵盤をおさえながら♪を2回押し、3拍分メモリーするときは鍵盤をおさえながら♪を3回押します。
- ★ノーコードの部分をつくりたいときは、鍵盤をおさえないでその拍数の音符ボタンを押します。
- ★鍵盤をおさえてコードをメモリーすることに、リズムセレクトやバリエーション、テンポ、リズムボリューム、ピアノABCのボリュームもメモリーすることができます。
- ★イントロ/エンディングもメモリーできます。イントロの場合は、レコードボタンを押したすぐ後にイントロ/エンディングボタンを押すと、再生の際2小節のイントロカウントで始まり、エンディングの場合は、メモリーの最後にイントロ/エンディングボタンを押しながら音符ボタン(○または♪)を押すと、再生の際エンディングパターンで自動伴奏がストップします。

4 楽譜を見ながら順番にメモリーさせましょう。

5 メモリーがおわったら、もう一度レコードを押します。

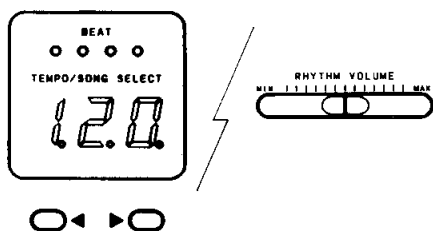
-
- ★シーケンサーメモリーに記憶されたデータは、つぎのいずれかの操作を行わないかぎり、パワースイッチをOFFにしても約1週間保持されます。
 - 新しいデータをシーケンサーメモリーにメモリーする。
 - RAMパック(CVP-10のみ)、RAMミュージックノートブック、またはカセットテープからデータをロードする。
 - ROMミュージックブックを使用する。

※このような操作をする際、シーケンサーメモリーにメモリーさせたデータを消したくない場合は、RAMパック(CVP-10のみ)、RAMミュージックノートブックもしくはカセットテープにセーブしてください。(くわしくは42ページの「付属端子とオプション」をご覧ください。)

- ★シーケンサーメモリーのメモリー容量は999小節です(パフォーマンスメモリーのメモリー量により減少することもあります)。容量いっぱいまでメモリーすると、自動的に録音がキャンセルされます。
- ★RAMミュージックノートブック(RA-8)にデータをセーブする場合、メモリー容量は約1,000音符です。
- ★RAMパック(CVP-10のみ)のメモリー容量はクラビノーバと同じ32Kバイトなので、データを記憶させる場合、メモリーオーバーすることはありません。

(コードを再生)

1 リズムのテンポとボリュームを調節。



2 プレイをON。



ピアノ/ABCが自動的にONになり、演奏スタンバイの状態になります。

3 リズムのスタートをON。



メモリーしたコード演奏がくり返し再生されます。コード演奏にあわせてメロディを弾いてみましょう。

★メモリーの最後にエンディングを使用した場合は、コード演奏はくり返されません。

★ピアノ/ABC用鍵盤、イントロ/エンディングボタンを押してスタートさせることもできます(イントロ/エンディングでスタートさせた場合、コードの最初2小節分は再生されず、イントロのリズムだけ鳴ります)。

★演奏を止めたいときは、リズムのストップかプレイボタンを押します。

(コードを途中から変更したいときは…)

1 演奏を再生し、聴きながらメモリーしなおしたいところでエディットをON。

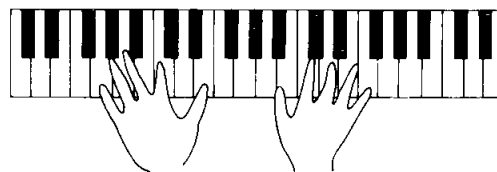


演奏がストップ。テンポ/ソングセレクトインジケータに、変更する部分がメモリーした最初の小節から数えて何小節目であるかが表示されています。

★一番最初にエディットを押したときは、押した時点で演奏されていた小節の1拍目からメモリー変更ができる状態になります。そのあと、エディットを1回押すごとに、1小節ずつ前の小節の1拍目にもどります。

★演奏が止まっている状態でエディットを押すと、メモリーした最初の小節からメモリー変更ができる状態になります。

2 鍵盤を弾いて、メモリーしなおします。



最後まで演奏してください。部分的な変更はできません。

ミュージカル「キャッツ」の主題曲 「メモリー」を演奏してみましょう

キャッツ

A. L. Webber 作曲

Chords: C, C, Am, F

パフォーマンスマemory (ベースレコード)

パフォーマンスマemory (ボリレコード)

シーケンサーメモリ

(1×Tacet) | 回目はお休み

(2オクターブ低く)

Chords: Em, Dm, Am, G, C

© 1981 by The Really Useful Company Ltd.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL INTER SONG K.K.

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第8672116-501号

I コードをメモリー

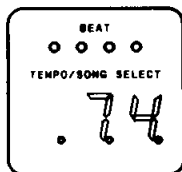
- 1) シーケンサーメモリーのレコードボタンをON。



- 2) リズムはスローロックを選びます。



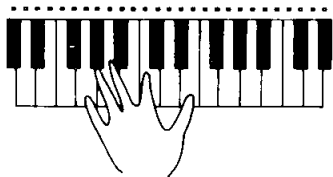
- 3) テンポを"74"にセット。



このボタンを、インジケーターに"74"と出るまで押し続けます。



- 4) まず、イントロ/エンディングのボタンをおします。これで、休符(-)の2小節が完了。この次からは、和音をおさえながらのボタンを押し、コード進行順にメモリーして行きます。



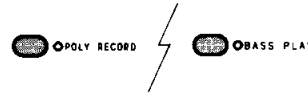
- 5) メモリーがおわったら、もう一度レコードボタンを押します。

III オブリガートをメモリー

- 1) ボイスセレクトのクラビノーバトーン3をON。ステレオシンフォニックもONにします。



- 2) パフォーマンスメモリーのポリレコードとベースプレイのボタンをON。



- 3) イントロ/エンディングのボタンをON。



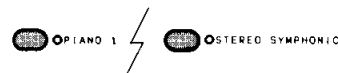
ベースラインの演奏にあわせて、オブリガートのパートを演奏します。1回目はお休み、くり返しの2回目から弾きはじめてみましょう。

- 4) 演奏がおわったら、リズムのストップボタンをON。



IV メモリーしたベース、オブリガート、コードの各パートを同時再生させながら、右手でメロディを弾いてみましょう。

- 1) ボイスセレクトのピアノ1をON。ステレオシンフォニックもONにします。



- 2) パフォーマンスメモリーのポリプレイとベースプレイ、シーケンサーメモリーのプレイボタンをON。



- 3) イントロ/エンディングのボタンをON。

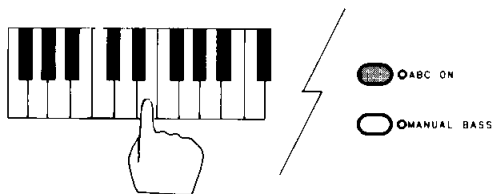


2小節のイントロカウントの後、再生された演奏にあわせて、メロディラインを弾きましょう。

※GVP-8は、パフォーマンスメモリーのポリレコードとベースレコード、シーケンサーメモリーを同時再生させた場合、鍵盤上での重ね弾きはできません。

II ベースラインをメモリー

- 1) キースプリット点を移動します。



ピアノABC(またはマニュアルベース)のボタンがOFFの状態、E2の鍵盤をおさえながらABCオン(またはマニュアルベース)のボタンを押します。

- 2) パフォーマンスメモリーのベースレコードのボタンをON。



- 3) イントロ/エンディングのボタンをON。



- 4) 演奏がおわったら、リズムのストップボタンをON。



データ保存編 PART1

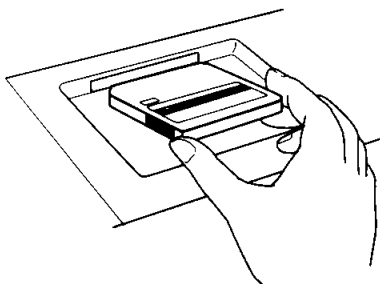
演奏データをRAMパックにストック (CVP-10のみ)

(ツーパック)

- 1 パフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーに演奏のためのデータをメモリーします。

★RAMパックは、これらすべての内容を一度にメモリーする事ができます。

- 2 RAMパックを差し込みます。



★メモリープロテクトのスイッチがOFFになっていることを確認してください。ONになっていると、RAMパックに情報をメモリーすることができません。

- 3 ツーパック/テープを押します。



すると、ツーパック/テープのランプが点灯し、すぐに消え、RAMパックに情報が記憶されたことを示します。この操作をした後は、RAMパックを引き抜いてもかまいません。

★ランプが点灯中は、RAMパックに関する機能以外は使うことができません。

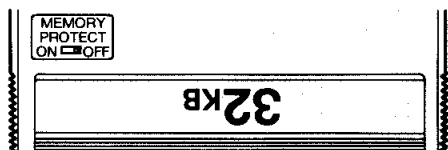
★1~3の操作でパフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーに記憶されている情報が消えることはありませんが、それまでRAMパックにメモリーされていた情報は消えてしまいます。

★ツーパック フロムパックともに、ランプが点滅した場合は、情報がメモリーされていません。そのときは、もう一度ボタンを押して点滅を消した後、もう一度やりなおしてください。(上記★印の項目に関しては、RAMミュージックノートブック、カセットテープも同様です。)

★RAMパックのメモリープロテクトがONのままツーパックの操作を行うと、ツーパックのランプが点滅し続けます。メモリープロテクトをOFFにして、もう一度ボタンを押せばランプは消えます。

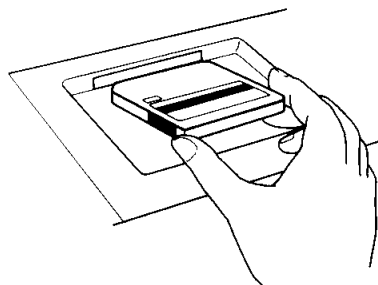
★ツーパック/テープ(またはツーテープ)やフロムパック/テープ(またはフロムテープ)のボタンを押す時に、2つ以上の演奏データ保存機能がセットされていた場合は、RAMパック、RAMミュージックノートブック、カセットコントロールの順で優先的にデータがメモリーされます。

●RAMパックに移した情報を消したくない時は………メモリープロテクトをONにします。



(フロムパック)

- 1 RAMパックを差し込みます。



- 2 フロムパック/テープを押します。



すると、フロムパック/テープのランプが点灯し、すぐに消え、クラブノヴァに情報が記憶されたことを示します。この操作をした後は、RAMパックを引き抜いてもかまいません。

★1・2の操作で、RAMパックにメモリーされている情報が消えることはありませんが、それまでパフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーに記憶されていた情報は消えてしまいます。(RAMミュージックノートブックカセットテープに関しても同様です)

★RAMパックには、情報の消去防止のためにメモリープロテクトがついています。これをONにしておけば、たとえTO PACK(ツーパック)の操作をしてもパックの情報は保護されるので、誤って消してしまうミスが防げます。

★メモリープロテクトは、いつでもOFFにし、またONにすることができます。

●RAMパックの保管

RAMパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管では、次の点に注意してください。

★落としたり、強い力を加えたりしないでください。

★差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、キズをつけないでください。

★内部に水やホコリの入らないように、ご注意ください。

★保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

★RAMパックにメモリーされた情報は、内蔵の電池によってバックアップされていますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうとメモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は通常の使用で約5年です。)

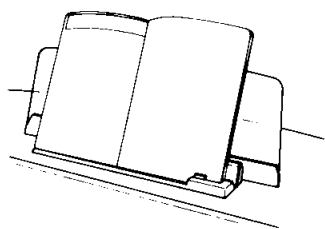
データ保存版 PART2

RAMミュージックノートブックでオリジナルのミュージック・ライブラリーをつくる

(セーブ)

1 パフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーに演奏のためのデータをメモリーします。

2 RAMミュージックノートブックをクラビノーバのソケットにセット。



3 CVP-10はツープック/テープ、CVP-8はツータープをON。



ランプが点灯し、すぐに消え、RAMミュージックノートブックに情報が記憶されたことを示します。この操作をした後は、RAMミュージックノートブックのソケットをはずしてもかまいません。

(ロード)

1 RAMミュージックノートブックをクラビノーバのソケットにセット。

2 CVP-10はFROMパック/テープ、CVP-8はFROMテープをON。



ランプが点灯し、すぐに消え、クラビノーバに情報が記憶されたことを示します。この操作をした後は、RAMミュージックノートブックを引き抜いてもかまいません。

NOTE

以下のような場合にツープック/テープ(ツータープ)、またはFROMパック/テープ(FROMテープ)がエラーの点滅をします。もう一度ボタンを押せばランプは消えます。

- ★RAMミュージックノートブックの電池寿命は約2年間です。電池が切れるとセーブされていたデータが消去されますので、早めに交換してください。
- ★RAMチップに強度の静電気を加えるとセーブされていたデータの内容が変化することがありますので、ご注意ください。
- ★RAMミュージックノートブック(RA-8)にデータを記憶させる場合、メモリー容量はパフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーともに、それぞれ約1,000音符です。

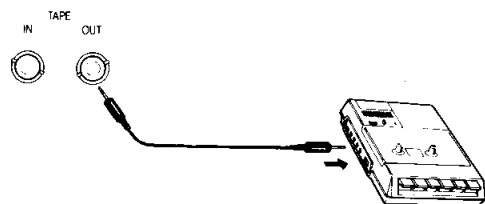
原因	処理	対処法
パフォーマンスメモリー、またはシーケンサーメモリーのデータがない。	セーブ処理されない。	パフォーマンスメモリー、またはシーケンサーメモリーのプレイをONしてデータを確認してください。いずれのプレイもONされない時は、メモリーをリセットしてください。
本体にメモリーしてあるデータの量が、RAMミュージックノートブックの容量より大きいため。	RAMミュージックノートブックの容量分だけセーブする。	RAMパックか、カセットテープにセーブしてください。
本体のデータとRAMミュージックノートブックのデータの内容が一致しない。	メモリー内容は変化しない。	セーブをやりなおしてください。
セーブの際、本体にメモリーしてあるデータの量がRAMミュージックノートブックの容量より大きかったためセーブしきれなかった。	メモリー内容は変化しない。	---
RAMミュージックノートブックに有効なデータがない。	ロード処理されない。	---
RAMミュージックノートブックのデータの一部分が破壊されている。	本体のメモリー内容が消去される。	---

データ保存編 PART3

演奏データをカセットテープにストック

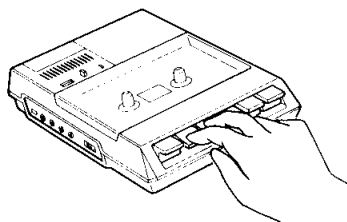
(ツーテープ) 演奏データを外部テープに録音する
操作

1 クラビノーバのテープアウト端子とデータレコーダのMIC IN端子をコードで接続。



2 カセットテープをデータレコーダにセット。
★何も記憶されていない部分をさがします。

3 データレコーダの録音スイッチをON。



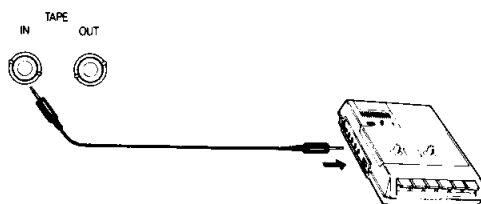
4 CVP-10はツーパック/テープ、CVP-8はツーテープをON。



5 ランプが消灯したら、録音完了。データレコーダの録音スイッチをOFFにします。

(フロムテープ) 外部テープに録音した演奏データをクラビノーバにメモリーする操作

1 クラビノーバのテープイン端子とデータレコーダのヘッドホン端子(イヤホン端子)をコードで接続。

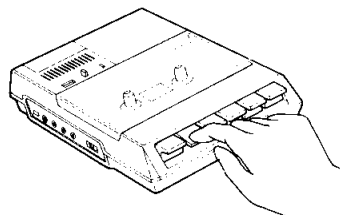


2 カセットテープをデータレコーダにセット。
★記録させてあるところまでテープを巻き戻します。

3 CVP-10はフロムパック/テープ、CVP-8はフロムテープをON。



4 データレコーダの再生スイッチをON。



5 ランプが消灯したら、再生完了。データレコーダの再生スイッチをOFFにします。

NOTE

★ツーテープ、フロムテープがONされている時、鍵盤を押しても音は出ません。
★ツーテープ、フロムテープに要する時間は、データの量によって異なりますが、最大4分強です。

★接続が不完全であったり、データレコーダとのマッチングが悪い場合、フロムテープのランプが点灯したまま、または点滅状態になります。ボタンをもう一度押してランプを消し、接続などを確認してからやりなおしてください。

■ツーテープ、フロムテープがうまくいかない場合、次のチェック項目にそって確認してください。

①再生時にデータレコーダのロードボリュームツマミを中央より高め(10段階目盛では6~8)に合わせてください。レベルが大きすぎても読み込みません。

②データレコーダの録音・再生操作は間違っていないか。
録音したあと、データレコーダからコードを抜いてテープを再生してください。ピーという音が出れば録音されています。ピーという音が出ない

場合はコードなどを確認してください。

③データレコーダのヘッドが汚れていませんか。録音、再生ヘッドのクリーニングを試してみてください。

④テープを確認してください。

●テープはコンピュータ用のものか、あるいはオーディオ用の場合はノーマルテープ、ローノイズタイプの30分か45分のものご使用ください。

●テープ面に折り目、継目、シワがないことを確認してください。

●新しいテープをご使用ください。また、テープの巻き始めはシワなどによってエラーとなることがありますので、少し空送りしてからご使用ください。

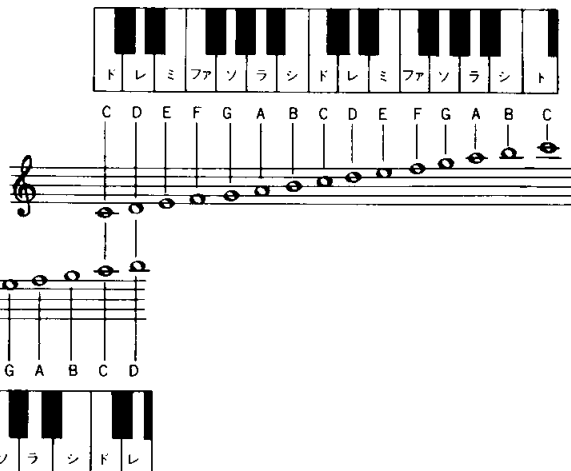
★データレコーダによっては、ツーテープ、フロムテープの操作ができない場合もあります。その場合は、裏表紙記載の各電音サービスセンターにご相談ください。

楽譜三知識

■五線譜の読み方は

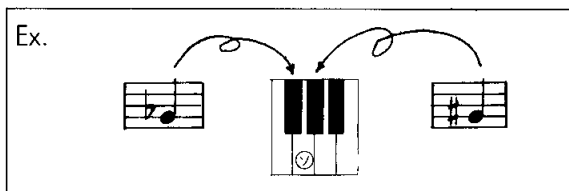
はじめに、鍵盤と五線譜の関係を示してみると…

英語ではこのようにアルファベットで読みますがたとえばドの場合の英語はC。そして、この音をもとにしてつくれる和音を“Cコード”と呼びます。



★黒鍵は、音符に“#”“b”がついている時に使います。

“#”なら右上、“b”なら左上の黒鍵をおさえます。



■記号も覚えましょう

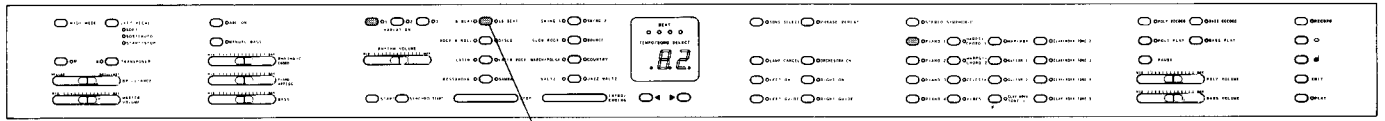
記号と読み方	意味
# シャープ	半音あげる
b フラット	半音さげる
♮ ナチュラル	♯、bのついていた音をもとの音にもどす
タイ	音をつなげる (この場合♪と 同じになる)
スラー	なめらかに弾く
フェルマータ	その音をながくのばす
Tacet タセット	伴奏を休む
Fine フィーネ	おわり

■音符と休符の長さ

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
全音符	4つ分のばす	全休符	4つ分休む
付点2分音符	3つ分のばす	付点2分休符	3つ分休む
2分音符	2つ分のばす	2分休符	2つ分休む
4分音符	1つ分のばす	4分休符	1つ分休む
8分音符	2(BBBB=1) 半分にする	8分休符	2(??=1) 半分休む
16分音符	4(BBBBBB=1) 1/4にする	16分休符	4(????=1) 1/4休む
3連音符 (3連符)	3等分する	3連休符	3等分する (♪♪♪ は ♪ を 3 等分)

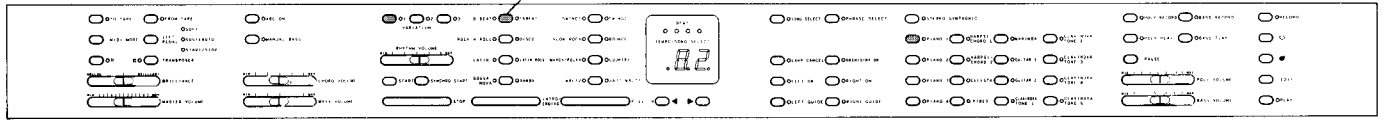
記号とよみ方	意味
リピート	くりかえし
1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと「2」へ
D.C. ダカーホ	最初からくりかえし、Fine D.C. でおわり
D.S. ダルセーニョ	記号※からくりかえし、Fine D.S. でおわり
☼ Coda コーダ	to ☼ ☼Coda to ☼までくりかえしたあと ☼Codaへ

<最初のセッティング>



CVP-10

8ビートをON



CVP-8

瑠璃色の地球

作詞:松本隆 作曲:平井夏美

C ConB^b F^onA F^omonA^b

(2オクターブ低く)

C ConB^b F^onA F^onGG

↑
シンクロスタートON
ピアノABC ON

C Bm7 E7 Am F[#]m7⁻⁵

よあけのこないよ るはないさ あなたがポツリ言 う
 なやんだひもある かなしみに くじけそうなとき も

1. F Em7 Am7 Dm7 G7sus4 G7

とうだいのたつみ さきで く らい うみを み ー ていた

2.F Em7 Am7 F#m7 G7sus4 G7

あなたがそこにい たから いきてこ られ た

C Dm7 Bm⁻⁵ E7 Am A7

あさひがすいへい せーんから ひかりのやをはな ち ふたりをつつんで

Dm7 F G7sus4 G7 to C Em⁻⁵ A7 Dm7

ゆくのル リいろのちきゅう - ひとつしかな い

B7 Em7 Am7 Dm7 G7

わたしたちの ほしをまもりたい -

Coda C Am Dm7 G7

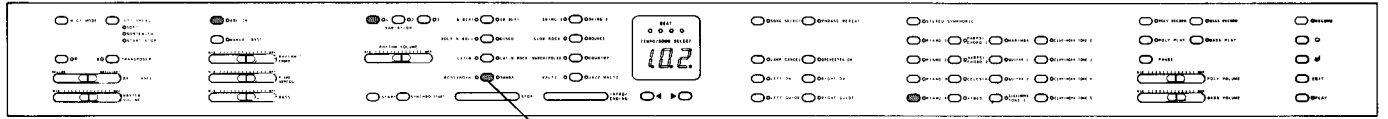
- ル リいろのちきゅう

↑ Rhythm Stop ABC OFF

C ConBb FonA FonGG C

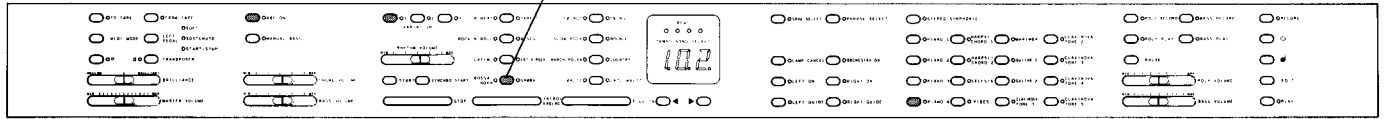
う

＜最初のセッティング＞



CVP-10

ポサノバをON



CVP-8

愛はかげろうのように

パフォーマンスメモリーのポリレコードにオブリガート、シーケンサーメモリーにコードを記憶させて弾いてみましょう。(20～25ページ参照)

※CVP-8は、シーケンサーメモリーにコードを記憶させてメロディーラインのみ弾きましょう。

メロディー

オブリガート
(音色はピアノ)

コード
(2オクターブ低く)

D Dm G7 C

System 1: Measures 1-4. Chords: D, Dm, G7, C.

G Am Em F C

System 2: Measures 5-9. Chords: G, Am, Em, F, C.

Dm G7 C G Am

System 3: Measures 10-14. Chords: Dm, G7, C, G, Am.

Em F Em Am Dm G7 C

System 4: Measures 15-19. Chords: Em, F, Em, Am, Dm, G7, C.

↑
Rhythm Stop

MIDIの楽しみかた

クラビノーバには先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができる、MIDI端子がついています。他のキーボードと接続して

ひとりでアンサンブルをしたり、パソコンとつないでクラビノーバに自動演奏させるなど、より多彩な音楽表現をすることができます。

MIDIとは…?

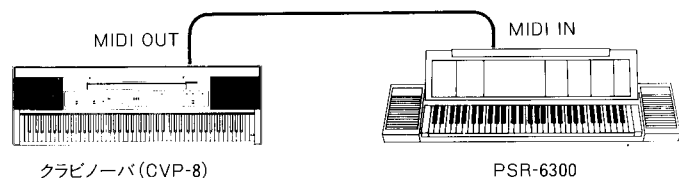
MIDIは「ミディ」と読み、Musical Instrument Digital Interface(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)の略。日本語にすると「楽器間デジタル通信」ということになります。簡単にいうと、電子楽器と電子楽器がうまくコミュニケーションをとりあい、その情報(つまり音程とか

音をのばす長さなど)を互いに交換するためのもの。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どこのメーカーの製品でも、MIDIがついていれば情報交換をすることができるのです。

とりあえず、つないでみましょう

■クラビノーバを演奏して他のキーボードとアンサンブル

(例:ポータブルPSR-6300との接続)

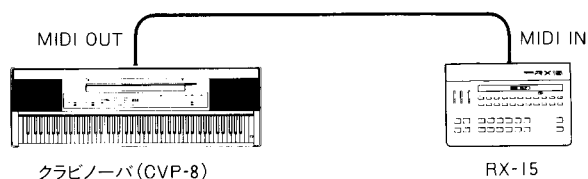


上図のようにクラビノーバのMIDI OUTとPSR-6300のMIDI INを接続すれば、クラビノーバを演奏するだけでPSR-6300からも音をだすことができます。つまりクラビノーバの鍵盤をおさえた情報が瞬時にPSR-6300に伝わり、音程や音の長さ、タッチなどの同じ音がPSR-6300からもでて、厚みのある演奏ができるのです。この時、音色は別々に指定することができるので、クラビノーバのピアノ系音色にPSR-6300のストリングス系の音色を組み合わせるとピアノコンチェルト風の演奏をひとりで楽しむなど、工夫でいろいろなアンサンブルをつくりだすことができます。

この演奏する方のキーボード(この場合はクラビノーバ)を「マスター」、情報を受けとって音を出す方を「スレーブ」と呼びます。このほか、DX7などと接続しても、アンサンブルが楽しめます。

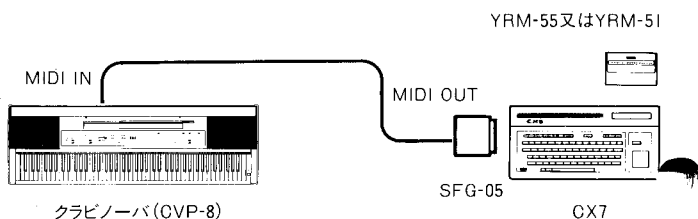
また、クラビノーバの方を「スレーブ」にして、他のキーボードの演奏にユニゾンで鳴らすこともできます。

■リズムマシンRX15とプレイ



クラビノーバのリズムもPCM音源だけあってなかなかの迫力ですが、もっとラテンっぽいリズムの華やかな曲を雰囲気だして演奏したいとか、曲の途中にドラムソロを入れたい、なんていうときは、リズムマシンRX15と図のように接続。また、RX15は10曲分もメモリーすることができるので、あらかじめドラムパートをメモリーさせておき、クラビノーバのリズムとあわせてツインドラムで楽しむこともできます。

■パソコンでクラビノーバ自動演奏



自分でプレイするかわりに、パソコンでクラビノーバに演奏させるという楽しみ方もできます。たとえばヤマハMSXパソコンCXシリーズには、ミュージックコンポーザー(YRM-55やミュージックマクロ(YRM-51))という音楽力用ソフトがありますので、これを使って、演奏させたい曲を打ち込むだけ。クラビノーバが自動演奏してくれます。音色は、曲のイメージにあわせて自由に選べます。

MIDI仕様

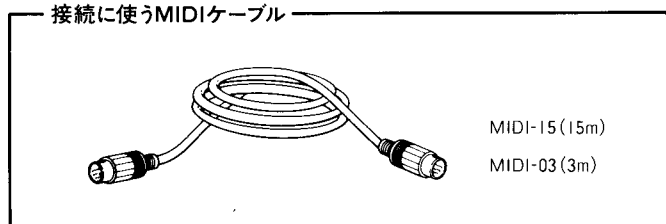
■クラビノーバのMIDIでできること

- 鍵盤押鍵情報の送信・受信
- 音色ナンバーの送信・受信
- レフトペダル、ライトペダルのコントロールの送信・受信
- パフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリーの送信・受信
- MIDIクロックの送信・受信

■電源ON時の状態

- クロックはインターナルクロック。
- 送信チャンネルは1に設定されています。
- 受信チャンネルは1に設定されていますが、どのチャンネルからの送信も受信します。(OMNI ONの状態)
- ローカルはオン。
- プログラムチェンジキャンセルはOFF、つまり音色ナンバーの送信・受信を行うことができる状態。
- コントロールチェンジキャンセルはOFF、つまりペダルコントロールの送信・受信を行うことができる状態。

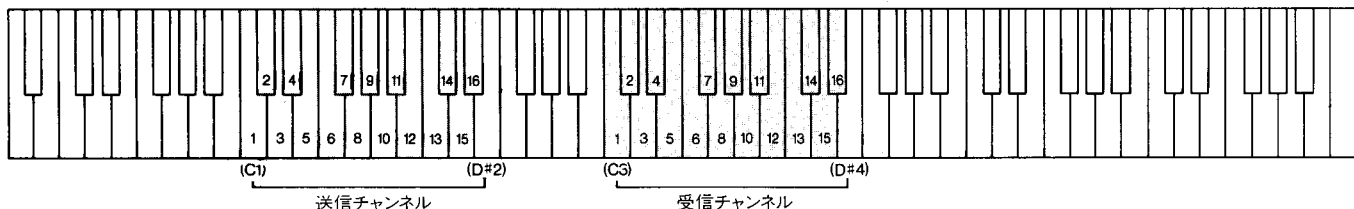
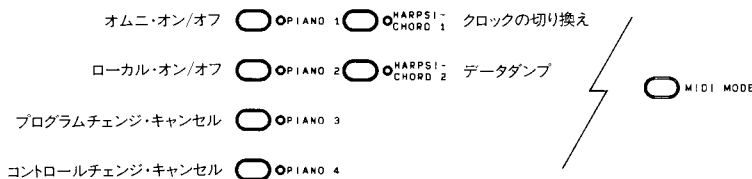
接続に使うMIDIケーブル



MIDIモードの設定

MIDIモードのボタンを押すと、音色セレクターのボタンや鍵盤が下の図のような役割をするようになります。(下の各操作はリズムが鳴

っていると機能しません。必ずリズムをストップさせてから行ってください。)



A. 必要な情報だけを送・受信するには

(送・受信チャンネルの設定)

MIDIでは必要な情報だけを送・受信できるように、各情報にはチャンネルナンバーが設定されています。このチャンネルとは、テレビのチャンネルのようなもの。いろいろな放送局がそれぞれ決められたチャンネルで同時に放送しているものの中から、見たい番組をひとつ選んでその局のチャンネルに合わせるのと同じです。MIDIには1~16チャンネルまで使用でき、次の操作によって、チャンネルをセットします。

操作

- MIDI MODEのボタンを押したまま、上の図に示した送信チャンネルの鍵盤をひとつ押えれば、送信チャンネルがそのナンバーにセットされます。
- MIDI MODEのボタンを押したまま、受信チャンネルの鍵盤をひとつ押えて、受信チャンネルナンバーもセットできます。
- ★電源ON時はオムニ・オンのため、受信チャンネルをセットしてもすべての情報を受信します。

B. 必要な情報だけを受信するには

(オムニ・オン/オフの切り換え)

ムニ・オン/オフというのは、受信した時にその情報のチャンネル指定に従うか(オムニ・オフ)、無視するか(オムニ・オン)の設定です。電源ON時はオムニ・オン、つまり何チャンネルかの指定に関係なく送られてきた情報をすべて受け取ります。そこで必要な情報だけを受信するには、A.の受信チャンネルの設定をするのと同時に、オムニ・オフのモードにします。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ1のボタンをON。ランプが点灯すればオムニ・オフ、もう一度押せばランプが消え、オムニ・オンに戻ります。

C. 本体から音をださずに押鍵情報を送信するには

(ローカルオン/オフの切り換え)

ローカル・オフのモードにすると、鍵盤を押しても演奏しているクラビノーバ本体からは音がでなくなり、MIDI情報を受信している他のキーボードのみから音がでます。また、他の楽器から送られたMIDI情報(押鍵)を受信した時は音が鳴ります。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ2のボタンをON。ランプが点灯すればローカル・オフ。もう一度押せばランプが消え、ローカル・オンに戻ります。

D. 音色の切り換えの情報を送・受信しない時には

(プログラムチェンジ・キャンセル)

音色の切り換えの情報を送・受信したくない時に使うモードです。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ3のボタンをON。ランプが点灯すればプログラムチェンジ・キャンセルモード。

E. ペダルのコントロール情報を送・受信しない時には

(コントロールチェンジ・キャンセル)

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのコントロール情報を送・受信したくない時に使用します。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ4のボタンをON。ランプが点灯すればコントロールチェンジ・キャンセルモード。

F. インターナルクロックをMIDIクロックに切り換えるには

(クロックの切り換え)

リズムのテンポクロックをMIDIクロックにするときに使用します。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ハーブシコード1のボタンをON。ランプが点灯すれば、MIDIクロックモード。

G. パフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリーの情報を送信するには

(データダンプ)

データダンプとは、もう一台の同機種同士(CVP10や8)に、パフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリーの情報を送ることです。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら、ハーブシコード2のボタンをON。

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送	信	受	信	備	考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1チャンネル ○		1チャンネル ○			
電源ON時 モード メッセージ 代用	モード 3 × *****		モード 1 オムニ、モノ/ポリ ×			
ノート ナンバー 音 域	21~108 *****		21~108 21~108			
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 90H、V=1~127 × 90H、V=0		○ V=1~127 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		×			
64 66 67 コントロール チェンジ	○ ○ ○		○ ○ ○		ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル	
プログラム チェンジ 設定可能範囲	0~15 *****		0~127 0~15			
エクスクルーシブ	○		○			
ソング・ポジション コモン ソング・セレクト チューン	× × ×		× × ×			
リアル クロック タイム コマンド	○ ○		○ ○			
ローカルON/OFF その他 オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ ○ ○			
備 考						

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ
 モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
 ×: なし

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送	信	受	信	備	考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1チャンネル ○		1チャンネル ○			
電源ON時 モード メッセージ 代用	モード3 × *****		モード1 オムニ、モノ/ポリ ×			
ノート ナンバー 音 域	21~108 *****		21~108 21~108			
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 90H、V=1~127 × 90H、V=0		○ V=1~127 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		×			
64 66 67 コントロール チェンジ	○ ○ ○		○ ○ ○		ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル	
プログラム チェンジ 設定可能範囲	0~15 *****		0~127 0~7			
エクスルーシブ	○		○			
ソング・ポジション コモン ソング・セレクト チューン	× × ×		× × ×			
リアル クロック タイム コマンド	○ ○		○ ○			
ローカルON/OFF その他 オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ ○ ○			
備 考						

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ
 モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
 ×: なし

故障と誤りやすい現象

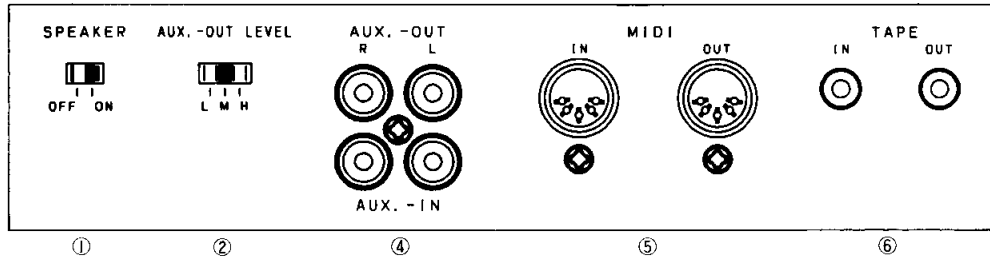
現象	原因	解決法
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電流が流れたため。	ご心配いりません。
ボイスセレクトで選んだ音色とは別の音色が出る。	ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部で弾いている。	ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部の音色は選んだ音色と関係ありません。ピアノABC用鍵盤部をボイスセレクトで選んだ音色の領域にした場合は、ピアノABCのボタンをOFFにします。
鍵盤を同時に17音おさえても16音しか出ない。また、ピアノABCを使っているとき、同時に11音(7音)おさえているのに10音(6音)しか出ない。	音色は同時に16音までしか出ないようにになっています。また、ピアノABCを使っているとき、CVP-10は10音、CVP-8は6音しか出ないようにになっています。	後におさえた音が優先します。
リズムの音が出ない。	①スタートボタンが押されていない。 ②シンクロスタートボタンを押してピアノABC用鍵盤部を押していない。 ③リズムボリュームが最小になっている。 ④クロックがMIDI外部クロックになっている。	<①②③> 12ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 <④> 37ページの説明を読んで、クロックをインターナルクロックに戻してください。
ピアノABCの音が出ない。	①ピアノABCのボタンがOFFになっている。 ②ピアノABC用鍵盤部をおさえていない。 ③ピアノABCボリュームが最小になっている。	14ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
ピアノABCで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤部を指を離さずに弾いているため。	コードを変えるときは、いちど鍵盤から指をはなすしてください。
ペダルの効果がかからない。	①(CVP-8)付属端子にペダルのプラグが接続されていない。 ②ピアノABCのボタンをONにしているとき、ピアノABC用鍵盤部で弾いている。	<①> 3ページ組み立て方の説明をお読みください。 <②> ペダルの状態は、ピアノABCの音に関係ありません。
クラビノーバの本体から音が出ない。(CVP-10)	スピーカーON/OFFスイッチがOFFの状態になっているため。	スピーカーON/OFFスイッチをONにしてください。

	現 象	原 因 と 解 決 法
ROMミュージックブック 使用時	鍵盤をおさえても音が出ない。また、ガイドランプを追いかけて演奏しているときやマイナス・ワン演奏のとき、5音おさえても4音しか出ない。	ROMミュージックブックを再生しているとき、鍵盤をおさえても音は出ません。また、ライトガイドやレフトガイドのボタンをONにしているかマイナス・ワン演奏にしているとき、レフトパートとライトパートなら4音、オーケストラパートは8音まで発音します。
	ガイドランプが点灯しない。	ランプキャンセルが押されているとガイドランプは点灯しません。ランプキャンセルのボタンをもう一度押してOFFの状態にしてください。
	複数曲を連続再生しているとき、ROMミュージックブックのROMチップをソケットからぬいたら、次の曲を再生しなくなった。	連続再生のとき、ROMミュージックブックから1曲ずつ本体にデータがおくられてくるしくみのため、ソケットからROMチップをぬくと、そのとき演奏していた曲がもう一度くり返されて演奏がストップします。
	ROMミュージックブックを再生しているとき、オーケストラ、またはライト、レフトのパートが聞こえない。	オーケストラオン、またはライトオン、レフトオンのボタンがOFFになっているとき、そのパートの演奏は聞こえません。それぞれOFFになっているボタンを押して、ONの状態にしてください。
	音色やテンポなどの変更ができない。	①自動演奏されている音色の変更はできません。 ②リズム、テンポ、ステレオシンフォニックの変更をしたいときは、プレイをONしたあとに行ってください。
パフォーマンスメモリー 使用時	鍵盤を5音以上おさえても4音しか音が出ない。	パフォーマンスメモリーのポリプレイとベースプレイ、そしてピアノABCを同時にONにしていると、そのとき同時におさえられる鍵盤数は4音までです。(パフォーマンスメモリーを使用した際の同時押鍵数が22ページに記載されています)
	再生のとき、音色やテンポの変更ができない。	①メモリーしたものの音色はあとで変更することはできません。 ②リズム、テンポ、ステレオシンフォニックの変更は、プレイをONしたあとに行ってください。
	ベースレコードやシーケンサーメモリーが使えない。	ポーズボタンを押しながらポリレコードを押して、16音モード(パフォーマンスメモリーで同時にメモリーできる鍵盤数が16音の状態)にしているため。ポリレコードをもう一度押してもとの押鍵状態にもどすと、ベースレコードやシーケンサーメモリーが使えるようになります。
	パフォーマンスメモリーのデータが消えてしまった。	メモリーさせたパフォーマンスメモリーのデータは、消える場合があります。22ページの説明をお読みください。
シーケンサーメモリー 使用時	シーケンサーメモリーのデータが消えてしまった。	メモリーさせたシーケンサーメモリーのデータは、消える場合があります。24ページの説明をお読みください。
	演奏の途中で、何も演奏されない小節が入ってしまう。	鍵盤を押さずに音符ボタンを押したため。ノーコードの小節からエディットボタンを押して、メモリーしなおしてください。
RAMパック 使用時	ツープックの操作をしても、RAMパックに情報が記憶されない。	RAMパックのメモリープロテクトがONになっているため、メモリープロテクトをOFFにして、もう一度ツープックの操作を行ってください。

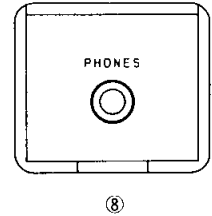
付属端子(および調節スイッチ)とオプション

本体背面には図のような付属端子(および調節スイッチ)がついています。これらを活用すれば、クラビノーバの楽しさがいっそう広がります。

<CVP-10>

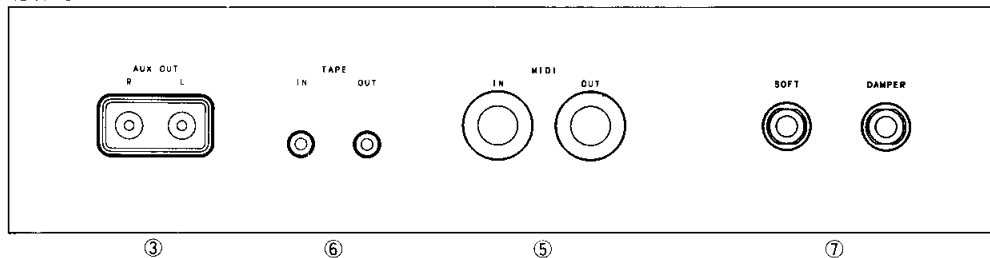


※上の端子は、本体左後部の下側にあります。

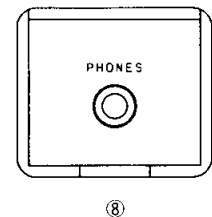


※ヘッドホン端子は、本体左手前の下側にあります。

<CVP-8>



※上の端子は、本体左後部にあります。



※ヘッドホン端子は、本体左手前にあります。

①スピーカーON/OFFスイッチ

通常はONの状態にしておきますが、多部アンプにつなぐ場合など、クラビノーバ本体のスピーカーから音を出したくない場合には、このスイッチをOFFにします。

②AUX-OUTレベル調整スイッチ

外部機能に接続する場合、クラビノーバ本体のアンプからの出力レベルを調整するためのスイッチです。

③AUX-OUT端子(L,R)

ご家庭のオーディオなどに接続して、より迫力のあるサウンドで演奏をお楽しみください。この端子とオーディオなどのAUX.IN端子に接続します。また、演奏を録音したい時などにも便利です。音量はマスターボリュームで調節してください。

④AUX.-IN端子(L,R)

シンセサイザーやリズムマシンを接続して、クラビノーバ本体のスピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器のボリュームで調節してください。

⑤MIDI端子(IN-OUT)

コンピュータやシンセサイザーに接続して情報交換するための端子です。(36~37ページ参照)

⑥テープ端子(IN-OUT)

パフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリーに記憶させたデータをカセットテープに保存したり、またテープから本体に戻したりするときに使います。(30ページ参照)

⑦ソフト端子、ダンパー端子(CVP-8のみ)

付属のソフトペダル、ダンパーペダルを接続する端子です。接続方法は、3ページの「組立て方」を参照してください。

⑧ヘッドホン端子

この端子にステレオヘッドホンを接続してください。夜間などでも周囲を気にすることなく、演奏を楽しむことができます。

オプション(別売付属品)

- ステレオヘッドホン[HPE-5] ¥5,500
- キーカバー[KC-12/CVP-6.8用] ¥25,000
- オーディオ接続コード[PSC-3] ¥1,000
- MIDIケーブル[MIDI-15/15m] ¥3,000
[MIDI-03/3m] ¥1,100
- イス[BC-5] ¥7,500
- RAMパック[RP-5/32Kバイト/CVP-10] ¥7,500
- RAMミュージックノートブック[RA-8/8Kバイト] ¥12,000

仕様

	CVP-10	CVP-8
鍵盤	88鍵<A ₋₁ ~C ₇ > ピアノタッチ	
音色	ピアノ1~4、ハープシコード1・2 チェレスタ、バイブス、マリンバ、ギター1・2、クラビノーバトーン1~5	
効果	ステレオシンフォニック、ダンパー、ソフト、ソステヌート、ブリリアンス	
リズム	8ビート-16ビート、ロックンロール-ディスコ、ラテン-ラテンロック、ボサノバ-サンバ、スウィング1-スウィング2、 スローロック-バウンズ、マーチ/ポルカ-カントリー、ワルツ-ジャズワルツ、バリエーション1・2・3	
●リズムセクター	リズムボリューム、テンポコントロール、ビートランプ、テンポインジケーター、スタート、シンクロススタート、ストップ	
●コントロール	フィルイン、イントロ/エンディング	
●その他	フィードバック	
ピアノABC	ABCオン、マニュアルベース、キースプリット<E ₀ ~C ₃ >、ピアノABC用鍵盤<A ₋₁ ~C ₃ >	
●コントロール	リズムコードボリューム、ピアノアルペジオボリューム ベースボリューム	コードボリューム、ベースボリューム
ROMミュージック	ソングセレクト、フレーズリピート、ランプキャンセル、オーケストラオン、レフトオン、ライトオン、 レフトガイド、ライトガイド	
●コントロール	ソングコントロール、ソングインジケーター	
パフォーマンスメモリー	ポリレコード、ベースレコード、ポリプレイ、ベースプレイ、ポーズ	
●コントロール	ポリボリューム、ベースボリューム	
シーケンサーメモリー	レコード、音符ボタン、エディット、プレイ	
RAMパック	_____	
RAMミュージック & カセットコントロール	ツーパック/テープ、フロムパック/テープ	ツーテープ、フロムテープ
その他の コントロール	パワースイッチ、パイロットランプ (CVP-8のみ)、マスターボリューム、トランスポザー<上下に半オクターブ>、ピッチ コントロール<±50セント>、SPEAKER ON/OFF (CVP-10のみ)、AUX.-OUT LEVEL<L.M.H> (CVP-10のみ)	
同時発音数	16	12
●ABC使用時	10	6
付属端子	HEADPHONES、AUX. OUT L-R、 AUX. IN L-R、TAPE IN-OUT、MIDI IN-OUT	HEADPHONES、AUX. OUT L-R、DAMPER、 SOFT、TAPE IN-OUT、MIDI IN-OUT
メインアンプ	30W × 2	20W × 2
スピーカー	20cm × 2、ドーム型スクーカー × 2 ドーム型ツイーター × 2、10cm × 2	16cm × 2、5cm × 2
定格電源	AC100V 50/60Hz	
消費電力	70W	45W
仕上げ	ブラックローズウッド調仕上げ	ブラックメタリック/グラニット調仕上げ
寸法(間口×奥行×高さ)	138.8(W) × 66.2(D) × 81.0(H)	135.9(W) × 43.8(D) × 78.9(H)
重量	70kg	47kg
付属品	ROMミュージックブック<メロディーマスター編、コードマスター編>、 トップカバー (CVP-8のみ)、キーカバー (CVP-10のみ)、RAMパック<RP-5> (CVP-10のみ)	

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間の1年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、方々やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 025-243-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ樹高松店内 TEL. 0878-51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ樹名古屋流通センター TEL. 052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目 ヤマハセンター内 TEL. 011-513-5036
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL. 082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL. 0534-65-6711
(本社)	
電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL. 0534-65-1158

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA

本 社	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(60)3275
東京営業所	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル TEL. 03(572)3130
大阪営業所	〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL. 06(252)7491
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5150
九州営業所	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2152
北海道営業所	〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター TEL. 011(512)6113
仙台営業所	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル TEL. 022(222)6141
広島営業所	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(244)3749

YAMAHA feelin' club



T4960693003718